

愛媛県立医療技術大学紀要

第14巻 第1号

2017年

目 次

原 著

- ツツバ語の数詞と儀礼
 内藤 真帆 1

短 報

- Identification Method for Blood Pressure Reflected Wave Based
 on Electric Circuit Model : A Proposal
 Noritaka OKAMURA 7
 (電気回路モデルによる血圧反射波同定法の一試案 岡村 法宜)

報 告

- 急性期看護学においてシュミレータと模擬患者を用いた
 シナリオ型シュミレーション演習の成果
 松井美由紀, 他 13

資 料

- Nouns in Tutuba Language (H-M)
 Maho NAITO 19
 (ツツバ語の名詞 (H~M) 内藤 真帆)

- Nouns in Tutuba Language (M-N)
 Maho NAITO 23
 (ツツバ語の名詞 (M~N) 内藤 真帆)

- 効果的な学習支援事例の共有による実習指導者と教員の協働リフレクション
 —地域看護学実習報告会における試み—
 田中美延里, 他 27

ツツバ語の数詞と儀礼

内藤 真帆*

Numerals and Rituals in Tutuba

Maho NAITO

Abstract

More than 100 vernacular languages are spoken on the 83 islands of the Republic of Vanuatu. One of them, the Tutuba language, is spoken by approximately 500 people on Tutuba Island. In this language, numbers over 21 are constructed with cardinal numbers with ordinal numbers (e.g., 20 30th 1), though numbers up to 19 are constructed with two cardinal numbers and the word that means “plus” (e.g., 10 plus 9). Since this unique counting method over 21 is different from the reconstructed Proto-Oceanic and most other cognate languages, it implies the language change occurred in the Tutuba language itself.

In this paper, I will first introduce the numeral system in the Tutuba language. Then, I will describe when the numbers are used in the lives of Tutuba speakers. After that, I will show how numbers over 21 are used in the rituals or marriage ceremonies on Tutuba Island and explain the reason why such large numbers are needed at these ceremonies. Finally, I will show the possibility that this unique counting over 21 was developed to meet the needs of traditional rituals that require large numbers.

Key Words : ヴァヌアツ ツツバ語 数詞 儀礼 言語変化

序 文

ヴァヌアツ共和国は南太平洋に位置し、Y字を成す83の島々から構成される島嶼国である。この国ではオーストロネシア語族のオセアニア諸語に属する100余りの現地語が話され^{1)・3)}、それらの共通語として国語であるビスラマ語が機能している。かつてこの国はニューヘブリデスと称され、イギリスとフランスの共同統治下にあった。統治下における公用語および教育言語は英語とフランス語であり、この国が1980年に独立して以降、これに国語ビスラマ語が加わって、英語とフランス語、そしてビスラマ語の三言語が公用語として制定された⁴⁾。国民の多くは母語である現地語とビスラマ語の両方を話し、さらに英語やフランス語を話す者も多く存在する。人々は同一の現地語を母語とする者とは現地語を用いて会話をし、異なる現地語を母語とする者とはビスラマ語を用いて会話をする。

本論文では、ヴァヌアツ共和国のツツバ島で用いられ

るツツバ語に焦点をあてる。この言語では21以降の基数が、例えば21であれば、「20 30番目 1」のように基数と序数の組み合わせによって表される。しかしながらLynchらの再建したオセアニア祖語では、21以降の基数に序数を用いることはなく、「20 + 1」のように加算の方法で表される²⁾。こうした基数と序数を組み合わせた数え方は幾つかの近隣言語で報告されているものの、この数え方へと変化した要因については仮説も含めて考察がなされていない。こうした背景を踏まえ、本論文では、ツツバ語の数え方とツツバ文化との相関性を論じ、オセアニア祖語から基数と序数を組み合わせた現在のツツバ語の数え方が発達した可能性を示す。

方 法

1. 先行研究と本研究のデータ

1969年から1974年にかけて、Tryonを含む四人の言語学者がヴァヌアツ共和国の言語や方言を対象に、それぞ

*愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

れの言語の基礎語彙およそ300語を調査した。これらを記録したNew Hebrides Languages³⁾の中には、ツツバ語の基礎語彙の音声表記も含まれており、筆者のものを除けば、これがツツバ語の唯一の先行研究である。オセアニアの数の先行研究としては、上記の書に記された基数1から10の音声表記のほか、The Oceanic Languages²⁾に記されたオセアニア祖語の数がある。これもまた、現在のツツバ語の数が、過去からどのような変化を経て今に至ったかを考察する上で不可欠な先行研究である。

本論文で扱うツツバ語のデータは、筆者が2001年から今日に至るまで定期的にツツバ島でツツバ語話者に調査を行って得られた発話である。ツツバ島では首長家族と寝食を共にして日常会話を収集したほか、儀礼や結婚式で交わされた自然発話やスピーチ、また儀礼で用いられた表現などを収集した。こうした参与観察に加えて、50代の首長や70代の高齢の話者を対象に、過去の儀礼やツツバ文化についての聞き取り調査も実施した。

2. ツツバ語の数

ツツバ語の数には基数・序数・倍数・分配数がある。基数はoal「8」を除き、1から10までがe-tea「1」、e-rua「2」のように、基数であることを示す接頭辞eと数を示す語基の組み合わせによって表される。基数8を意味するoalがe-oalと表されないのは、ツツバ語がe-oaという音連続を音韻的に許容しないからであると考えられる。1から10がこのように表されるのに対して、11から19は「10 加算 1」、「10 加算 2」のように10を意味する語saŋavulと加算を意味する語doman、そして下一桁の数が続いて表される。例えば11は以下のようになる^{註1)}。

(1) saŋavul	doman	e-tea
10	加算	cdn-1
「11 (直訳. 10 加算 1)」		

20, 30, 40のように、下一桁が0である二桁の数には、それぞれに対応する語が存在する。

(2) ŋavul-e-rua	(3) ŋavul-e-tol	(4) ŋavul-e-yati
10倍-cdn-2	10倍-cdn-3	10倍-cdn-4
「20」	「30」	「40」

同様に100, 200, 300のように下二桁が0である三桁の数にも、各々に対応する語が存在する。

(5) ŋalsavul	(6) vaa-rua	(7) vaa-tol
100	100倍-2	100倍-3
「100」	「200」	「300」

上記以外の数、すなわち下一桁が0ではない数は、次のように基数と序数の組み合わせで表される。

(8) ŋavul-e-rua	ŋavul-e-tol-na	e-tea
10倍-cdn-2	10倍-cdn-3-3sg.poss	cdn-1
「21 (直訳. 20 30番目 1)」		

なお序数は、接尾辞-naが基数に付加して表される。この接尾辞-naは、三人称単数の所有を表す接尾辞と同型である。

(9) e-tol-na	(10) batu-na
cdn-3-3sg.poss	頭-3sg.poss
「3 番目」	「彼の頭」

3. 祖語・近隣言語との比較

Lynch, Ross & Crowley²⁾は、再建されたオセアニア祖語では、1から10までの基数と一の位が0である二桁以上の数にはそれぞれ対応する語が存在し、おそらく10以上で一の位が0でない数は*ma「加算(and)」を介して表されたと述べている。

ツツバ語もこれと同じく、1から10までの数と一の位が0である二桁以上の数にはそれぞれ対応する語が存在する。また同様に10以上で一の位が0でない数にはdoman「加算(and)」が用いられる。しかし先に2.「ツツバ語の数」で示したように、ツツバ語の場合はこの数え方は19までであり、21以降になると基数だけでなく序数も用いられるようになる。この点はオセアニア祖語と異なる。

ツツバ語は北・中央ヴァヌアツグループに下位分類される言語である^{1),5)}。このグループに下位分類される言語、特に近隣諸語とは音素・音韻・形態・統語において共通するところが多い。これは数詞においても同様である。しかし21以降の基数表現は、同グループに下位分類される多くの言語とは異なる。

近隣諸語では、基数と序数を組み合わせた表現をせず、基数のみを並置するか、または加算に相当する語を一の位の数と十の位の数の間に挟んで二桁の数を表す。例えばツツバ語と同じ北・中央ヴァヌアツグループに下位分類されるアラキ語では、21は以下のように20と1が並置して表される⁶⁾。なお、この表現mo gavul dua mo heseは、Araki⁶⁾の81ページから引用したものであり、ここではグロスが付されていない。

(11) mo gavul dua	mo hese
20	1
「21 (直訳. 20 1)」	

中央ヴァヌアツグループに下位分類されるサウスエファテ語では、次の通り十の位の数⁷⁾が10掛ける2のように乗法(掛け算)を用いて表され、その後に加算を表す語atmatと一の位の数が続いて、二桁の数⁷⁾が作られる。

(12) ralim inru atmat itol
 10 2 加算 (and) 3
 「23 (直訳. 10×2 加算 3)」

序数が現れる点において数え方がツツバ語と同じであるのは、ツツバ語と同じく北・中央ヴァヌアツグループに下位分類される、マヴェア語⁸⁾やタマンボ語⁹⁾などの言語である。特にツツバ島の南西に位置するマロ島で話される言語タマンボ語は、ツツバ語と相互に理解が可能であり、数え方もツツバ語とほぼ同じである¹²⁾。

しかし、こうした言語の先行研究においては、数え方の報告と具体例が示されたのみで、その背景については仮説も含めて考察はなされていない。

Lynch, Ross & Crowley²⁾は、今日の伝統文化から判断するに、10以上の数詞はオセアニアの初期の一部ではさほど使われなくなっていたらと述べている。また6から9の数は早い段階において5+1, 5+2のような数え方に変化しただろうと仮説をたてている。これは基礎語彙にあたる数でさえも島嶼または地域文化の影響を受けて変化したことを示唆するものである。またツツバ語を含む北・中央ヴァヌアツグループの一部言語には、オセアニア祖語の唇音から発達したと考えられる世界でも希少な舌唇音が存在し、タンゴア語でこれを発音するのは男性に限られるというCamden¹⁰⁾の発表から、Clark¹⁾は舌唇音が社会的意味を担っていることは明らかだと述べている。文化や社会が言語および言語変化と密接に関与することを示唆するこれらの先行研究を基に、本論文ではこれまで着眼されていなかった当該地域の数え方の変化について考察を行う。そしてツツバ島で行われる儀礼の分析から、ツツバ語の数え方が文化や心理に依拠してオセアニア祖語から発達した可能性を示す。

結果・考察

1. 数が用いられる場面

ツツバ語には1000までの数が存在するが、このように大きな数が日常生活で必要となる場面は少ない。三桁はもちろん二桁の数であっても、家族や親族の人数を言う時に13, 17などと10台の数が用いられる程度で、それ以外の場面では稀である。年齢や暦、値段などはツツバ島の伝統的な暮らしにはそもそも存在しておらず、これらは宣教師の到来や、近年の学校教育によって導入され

て、その後浸透したものである。これらは現在ではビスラマ語で表され、それ以外のものに対しては多くの場合、具体的な数ではなく量詞tarina/tari「たくさん」やemrei「いくつか」などが使用される。人々は自給自足の生活を営み、タロイモやヤマイモを栽培しているが、例えばタロイモがいくつ穫れたか、ヤマイモを儀礼のためにいくつとっておくか等の報告や話題においては具体的な数が言及されることはなく、量詞evisasi「少し」やtarina「たくさん」、またこれを順接の接続詞roで繋げたtarina ro tarina「かなりたくさん」などが使用される傾向にある。海亀の卵のように、相当数に上るものについても同様である。つまり具体的な数は多くの場合に必要とされず、特に二桁以上の数が日常生活において使用される場面は稀であったと推測される。以下はツツバ語で数詞に代わって使用される量詞である。

evui「すべて」
 tarina ro tarina「かなりたくさん」
 tarina/tari「たくさん」
 emrei「いくつか」
 evisasi「少し」

いったいツツバ語の大きな数はどのような時に必要であったのか。また、このような複雑な数え方が、英語やビスラマ語に置き換えられることなく使用され続けてきたのはなぜか。

大きな数が必要とされたのは、「かなりたくさん」や「たくさん」などの量詞では情報量が不足という場面であったと考えられる。英語やビスラマ語に置き換えられることなく、特に60代以上の人々にツツバ語のこの複雑な数え方が使用され続けた背景には、彼らの重要視する事象と数え方が密接に関与していたためか、または何らかの理由により数え方そのものが彼らにとって重要であったためであると考えられる。

これまでの参与観察による現地調査および聞き取り調査から、ツツバ語にはそのような場面が二つ存在することが明らかになった。首長任命式と結婚式である。結婚式は新郎新婦とその家族の都合によって式次第が多々変化することから、ここでは首長任命式を例に、数に焦点をあてて説明する。

ツツバ島は首長を頂点とする階層社会であり、首長はツツバ島にある10の村ごとに少なくとも一人は存在する。首長は世襲制であるが、第三者の推薦とツツバ島の全首長の承認によって首長継承者ではない者も首長になることが可能である。この島の首長には10の階位が存在し、より高い階位に就くためには首長任命式においてより多くの豚を殺し、その肉を人々にふるまう必要がある。これは豚が財産であるこの地において十分な財力と寛大

な心を持った首長に足る人間であることを示す手段であり、儀礼で重要視される行為である。

ツツバ島の首長任命式は多くの場合、次の順で行われる。なお以下は聞き取り調査による1985年前後の式の描写であり、著者が参与観察中に参加した2005年の式ではヤムイモ以外に水を運ぶバケツなどの品が贈答されていた。このように贈答品に当世風のもの加わることあれば、時に新たな行為が加えられたり、また省略されたりということもある。

ヴァヌアツ共和国の豚を殺す行為は、伝統を反映するものであり、数多くの文献に記されている。ツツバ島では、以下に説明するように、参加者数を葉を用いて数えることも含め、儀礼の形態は過去から様々に変容して現在に至っていると考えられる。

- ① 人々が儀礼の執り行われる広場に集まり始める。ツツバ島は中央に丘が広がり、傾斜の多い地形である。また海岸沿いは樹木が茂り岩場も多く、平地が少ない。そのため儀礼を自宅周辺で行うことが難しい家がある。加えて、電気のない島にとって長時間にわたる儀礼のためには少しでも明るい海辺の方がよい。ゆえに多くの場合、平地がわずかにでも広がる島の両端ヴェオア地域またはホワイトサンド地域で行う。
- ② 新首長に任命される者の家族は、葉を手を持って広場の入口に立つ。そして参加者が目の前を通るたびに数え、葉に切り込みを入れながら人数を把握する。
- ③ 現首長の挨拶やヤムイモの贈答後、新首長に任命される者の息子が両手・両足を蔓で結わえられた豚を抱えて現れる。そして石を積み上げて作られたステージの上に豚を横たえる。
- ④ 新首長に任命される者が豚の眉間めがけて棍棒を振り下ろし、豚を殴って気絶または殺す。
- ⑤ 気絶した豚は、新首長に任命される者の家へと運ばれ、火で焙られる。
- ⑥ 現首長と立会い者から新首長の誕生と任命を認める宣言がなされ、新首長が着任の挨拶をする。
- ⑦ 葉を用いて参加者の数を数えていた者は儀礼会場から自宅へと走り、豚を焙っている家族にその人数を伝える。53人の来客であれば以下のように伝えることになる。

(13) navul-e-lima navul-e-ono-na e-tol
10-cdn-5 10-cdn-6-3sg.poss cdn-3
「53 (直訳.50 60番目 3)」

- ⑧ 家族は参加者全員に豚肉を行き渡らせるべく、豚

を切ってゆく。肉(赤身)だけでなく、皮のついた脂身(白身)も一切れとして切り分ける。

- ⑨ 切り分けた肉をバナナの葉に載せ、広場に運ぶ。そして居並ぶ参加者に一片ずつふるまう。

儀礼では、参加者一人ひとりにいきわたるように豚肉を切り分ける。このとき、その数に応じて不足なく豚肉を切り分けるには、事前に参加者の数を把握する必要がある。そのためには量詞 tarina 「たくさん」や tarina ro tarina 「かなりたくさん」では情報として不十分であったと推測される。こうして絶対に不足を生じさせない程度の概数(ここでは60番目)が必要であったことから、このような不足を生じさせない数え方へと発展させた可能性が考えられる。

2. 数え方の変化要因

ツツバ語の大きな数の数え方では、なぜオセアニア祖語や多くの近隣諸語の数え方と異なり、一つ上の序数を用いるのか。上記の伝統的儀礼が影響した可能性を考察する。

ツツバ語の数え方に序数が用いられる理由としては、以下の二つの可能性が考えられる。

可能性1. 自生的変化: オセアニア祖語から早い段階で5+1, 5+2のような数え方をする言語が現れたように、ツツバ語の数え方も、基数と doman 「加算」を用いる祖語と同じ数え方から、早い段階で序数を用いる数え方へと自生的に変化した。

可能性2. 自生的ではない変化: 祖語のように基数と doman 「加算」を用いて数えていたが、その後、参加者を「今30, 次の40番目まで1人, 2人…」と常に同桁の一つ上の数を念頭において数えるうちに、この数え方が定着した。

このうち、可能性が低いのは自生的な変化をしたとする1であると考えられる。数え方が言語の効率性に反して自律的にさらに複雑になった上、一の位以外の同位の基数と序数は、実際には同一の内容を意味するという余剰性がある。しかもツツバ語が文字や数字を持たない言語であり、音声が発話と同時に消失するという特性を有すると考えると、情報を受け取るにあたって聞き取らなければならない音声が増えることは、情報の伝達効率の上で合理的ではない。つまり言語の経済性の観点から、自生的にこの数え方になったとは考え難い。そのように考えると、儀礼により数え方が変化したと仮定を前提として、ツツバ語の話者が数え方を発達させたとする可能性2の方が、妥当性が高いと考えられる。このとき、頻度

は高くないものの1から20までの基数は日常生活の中で使用されることもあり、これらの数は、序数を用いる数え方へと変化した際にその影響を受けにくかったか、または影響を受けてもその数え方が人々に浸透しなかったと考えられる。

3. 基点を上げる理由

例えば31人であれば「30 doman(加算) 1」ではなく、40番目という表現を導入して「30, 40番目まで今1人」や「30, 40番目に向けて1人」のように、40という数を導入した理由には、文化的・心理的な背景が関与した可能性がある。

ヴァヌアツ共和国全土において豚は財産として扱われ、特に島民の多くが現金収入を持たないツツバ島において豚は何にも代えがたい宝である。豚の牙がヴァヌアツ共和国の国旗や紙幣に印刷されていることから、この国における豚の価値が窺える。豚肉を食す機会は儀礼の時より他になく、ツツバ島の首長数や年齢構成、また結婚式の頻度を基に考えるとそれは数年に一度、あるいは一年に一度あるか否かといった頻度であったと推測される。こうした儀礼が行われる際には、この豚肉一片を求めて、島民が島の端々から集まり、車や自転車などの交通手段がない島では、徒歩でゆうに1時間以上かけてやって来る。これらの参加者すべてに豚肉の一片を行き渡らせなければ儀礼は成功とは言えず、仮に豚肉を得ることが出来ない人が現れたならば、新たに任命される首長への不満が高まることになる。

ツツバ島には10の首長の階位があり、より高い階位に就くためには、首長任命式においてより多くの豚を殺して島民にその肉をふるまわなければならない。自身の財を島民に多く提供すればするほど崇められる制度において、参加者への豚肉が足りないということは首長候補とその家族にとって避けるべき事態である。この点から参加者数を数える者は、数に対して相当な心理的負担を負っていたと推測される。ゆえに切り分ける豚肉の数に余裕を持たせるため、一つ大きな数を基点として加えた可能性が考えられる。つまり話者の視点は「50からさらに3」ではなく、「50, そして60番目まで今3」や「50, 60番目に向けて今3」のように、「50」よりも重要となる「60番目」におかれた可能性である。また豚肉を切り分ける聞き手にとっても、肉が足りないという事態を防ぐことの出来る60という数のほうが50に比べ重要である。さらに仮に一の位が聞きとれなくとも、また忘れてしまおうとも、一つ大きな数が基点として伝えられている限り支障はない。すなわちこれは発話と同時に消えるという音声の性質と合致した、合理的な伝え方であるといえる。そしてまた数える者とその情報を受け取る者にとって、豚肉の不足に対する心理的負担や過度の余りを生じ

させる事態に対する不安を軽減するうえで最適な数え方であったといえる。

なお、こうした心理的負担の軽減方法は、社会により異なることが予想される。科学技術や資材・原資・交通網に富む地では、負担を軽減するための道具・機器の開発および導入が可能である。また離れた地への連絡方法として携帯電話を使うことも出来る。他方ツツバ島のように文字・数字・電気・水道・ガス・交通網が無い社会では、同様の方法による負担軽減は不可能であり、言語や身体・自然など当社会に存在するものを利用または変化させる以外になかったのではないだろうか。

ツツバ島の人口は1989年には315人、1979年には238人、1967年には158人である^{12),13)}。データが無いためそれ以前の人口は分からないが、現在よりも人口の少ない時にこの数え方へと変化した、当時は言及しなければならぬ百の位の数が限定されていたか、または十の位から数が始まっていたことも考えられる。その場合、重要となるのは十の位となり、数える者にとっても、また聞き手にとっても十の位の序数さえ把握できれば下一桁が把握できなかりと儀礼を成功させる上では差し支えなかったであろう。現在より少ない人口であったことは、この数え方を発展させ、浸透させる上で重要であったと推測される。

結 論

ツツバ語の21以上の、下一桁が0でない数は、オセアニア祖語や同系統の多くの言語とは異なり、doman「加算」を伴わずに基数と序数を組み合わせた数え方をする。このような数え方となった背景に関しては、これまでに仮説も含め考察がなされておらず、理由は不明であった。本論文ではこのような先行研究の乏しさや研究の余地を踏まえ、ツツバ島での長期の参与観察をもとに、大きな数が使用される場面およびツツバ島の文化と儀礼を調査した。そして、初めに以下の三点を明らかにした。

①儀礼や結婚式で、参加者数を数える時に大きな数が使用されること。②首長任命式において、豚を殺しその肉を人々にふるまう行為は、豚が財産であるこの地において十分な財力と寛大な心を持った首長に足る人間であることを示す手段であり、儀礼で重要視される行為であること。③儀礼の成功のためには参加者への豚肉の不足を生じさせてはならないという状況のもと、事前に参加者数を数える行為は豚肉を参加者全員に行き渡らせる上で非常に重要であること。

続いて、儀礼と数との相関を考察した。初めに、仮にこの言語が早い段階で「30 40番目 1」という数え方へと自生的に変化した場合について考察を行った。そして文化的背景、つまり参加者全員に豚肉が行きわたらせ

ることは儀礼成功のうえで不可欠であるという文化と心理が、この自生的変化の合理性を支持し、それゆえ序数を用いる数え方が保持されたと考えられることを説明した。また、儀礼文化に呼応して数え方が変化したのであれば、豚肉の不足を生むと儀礼の成功に関わるという心理的負担から、一つ大きな数を基点とする数え方へと発達させた可能性があることを説明した。つまり儀礼が人々の心理に影響を及ぼし、それが数え方に反映され、儀礼を経るにつれて広く人々の間に定着したとする可能性である。最後に、自生的変化と儀礼文化に呼応した数の変化は、どちらがより妥当であるかの考察を行い、音声の性質とコミュニケーションの経済性から、後者の妥当性が高いと考えられることを示した。

引用文献

- 1) Clark R (1985) : Languages of North and Central Vanuatu: Groups, chains, clusters and waves. In: Austronesian Linguistics at the 15th Pacific Science Congress. Pawley A and Carrington L (eds), p.199-236, Pacific Linguistics
- 2) Lynch J, Ross M, Crowley T (2002) : The Oceanic Languages. Routledge
- 3) Tryon DT (1976) : New Hebrides Languages: An Internal Classification. Pacific Linguistics
- 4) Early R (1993) : Nuclear Layer Serialization in Lewo. Oceanic Linguistics, 32, 1, 65-94.
- 5) Lynch, J (1998) : Pacific Languages: An Introduction. University of Hawai'i Press.
- 6) François A (2002) : Araki: A Disappearing Language of Vanuatu. Pacific Linguistics
- 7) Thieberger N (2006) : A Grammar of South Efate: An Oceanic Language of Vanuatu. University of Hawai'i Press
- 8) Guérin V (2011) : A Grammar of Mavea: An Oceanic Language of Vanuatu. University of Hawaii Press
- 9) Jauncey D (1997) : A Grammar of Tamambo: The Languages of Western Malo, Vanuatu. Doctoral Dissertation, School of Philosophy, Australian National University. Australia.
- 10) Camden WG (1979) : Parallels in Structure of Lexicon and Syntax between New Hebrides Bislama and the South Santo Language as Spoken at Tangoa. In Papers in Pidgin and Creole Linguistics. Mühlhäusler P, 2, p.151-117, Pacific Linguistics.
- 11) 内藤真帆 (2011) : 「ツツバ語 記述言語学的研究」. 京都大学学術出版会
- 12) The Republic of Vanuatu (1989) : Vanuatu National

Population Census May. National Statistics Office.
13) The Republic of Vanuatu (1999) : Vanuatu National Population and Housing Census. National Statistics Office.

脚 注

- 注1) 論文で扱う略号は以下の通りである。1・2・3 一人称・二人称・三人称, cdn 基数, class 分類辞, poss 所有者接辞, sg 単数, -接辞, * 祖語
- 注2) マヴェア語も序数を用いる数え方をするが、21から99の間の数であることを示す類別詞 ngav を伴う、また ngavul 「10年間」に三人称単数の主語代名詞接辞 mo- が付加して10の位の数が表されるなど、ツツバ語とは異なる点が多数ある。

要 旨

南太平洋のヴァヌアツ共和国では、80あまりの島々で100を超える現地語が話されており、国民の多くは国語ビスラマ語に加えて、現地語の少なくとも一つを話すことができる。

本論文は、現地語の一つであるツツバ語の21以上の数が、基数と序数を組み合わせて表されることに着目し、その背景および要因を参与観察と聞き取り調査により分析・考察するものである。

はじめにツツバ語の数について紹介し、この言語の21以上の基数が、オセアニア祖語や同系統の言語とは異なり、基数と序数を組み合わせて表されることを示す。続いてこうした大きな数が、儀礼などのツツバ島の伝統において用いられていること、および儀礼で重要な役割を果たしていることを明らかにする。そして儀礼の成功と数がどのように結びついているかを説明し、数に対する話者の心理が数え方の変化と関係した可能性を示す。

謝 辞

数多くのツツバ語話者の協力により、これらのデータを得ることが出来た。なかでも参与観察と聞き取り調査に積極的に協力して下さった Vernabas 首長とその家族、Eileen 氏, Sara 氏, Turabue 氏, John 氏, Delvin 氏, Eles 氏に深く感謝申し上げる。

本研究はJSPS 科研費 JP16H07139 の助成を受けている。

利益相反

なし

Identification Method for Blood Pressure Reflected Wave Based on Electric Circuit Model: A Proposal

Noritaka OKAMURA *

電気回路モデルによる血圧反射波同定法の一試案

岡村 法宜*

Keywords : augmentation index, reflexed wave, stiffness, arteriosclerosis, electric circuit

Introduction

The proceeding blood pressure wave in an artery is generated when the ventricle ejects blood. The reflected pressure wave is what the proceeding wave reflects at the arterial bifurcation in the periphery and returns to the recording position¹⁻⁴⁾. The blood pressure waveform recorded on the central side of a large artery is what the proceeding pressure wave and the reflected pressure wave overlap in the recording position. Owing to the enhanced velocity of the pressure wave propagating in the artery with the progress of arteriosclerosis, the technology that extracts the reflected wave from the blood pressure waveform could be used for the evaluation of arteriosclerosis. Precisely, the augmentation index (AI), which is clinically used as the scale of arteriosclerosis, demonstrates the relative proportion of the reflected wave in the blood pressure waveform⁵⁻⁷⁾. Although AI is the ratio of the amplitude of the reflected wave to the amplitude of the proceeding wave, the blood pressure wave is not separated accurately into the proceeding wave and reflected wave for its calculation.

Conversely, the relationship between voltage and current and between blood flow and blood pressure are very similar⁸⁾. Although the reflected wave of the

blood pressure exists in the blood flow circuit, that of the voltage, such as the blood pressure wave, does not exist in the current circuit in the low-frequency range. This variation is attributed to the difference in the propagation speed between the electrical and fluid phenomenon, thereby challenging the accurate simulation of the fluid phenomena using an electric circuit. It can be considered as a disadvantage in simulation, which in turn, could be an advantage for obtaining the blood pressure waveform without the reflected wave.

This study proposes a new method to calculate the reflected wave by subtracting the blood pressure waveform produced using the electric circuit simulator from the actual blood pressure waveform. In addition, this study compares the blood pressure reflected wave obtained from a healthy male university student and a middle-aged male. Finally, it was assessed whether the signs of arteriosclerosis because of aging appeared in the blood pressure reflected wave of the middle-aged male.

The method proposed in this study is based on a principle different from the conventional method of evaluating the blood pressure reflected wave. Although this study is in its initial stages, inadequate data is presented to seek relevant feedback on the calculation

*Department of Medical Technology, Faculty of Health Sciences, Ehime Prefectural University of Health Sciences

method based on this principle.

Subjects and Method

1. Subjects

This study examines three healthy male university students aged 21–22 years and a healthy 4-year-old middle-aged male. All participants provided written informed consent before participating according to the ethical standards of the Declaration of Helsinki.

2. Measurement

In this study, all participants were examined in the standard supine position for all assessments. Systolic and diastolic blood pressures of participants were evaluated by auscultation. Then, the blood flow of the left ventricular outflow tract was assessed using ultrasonography (ProSound Alpha6; Hitachi Ltd., Tokyo, Japan), and the pulse wave of the left carotid artery was assessed using a pulse wave sensor (TK-701T; Nihon Kohden Corp., Tokyo, Japan). Finally, the pulse waveform with the systolic and diastolic blood pressure at the peak and bottom of the pulse waveform, respectively, was defined as the blood pressure waveform.

3. Calculation method

1) Simulation by an electric circuit

Figure 1 shows the Windkessel model by an electric circuit that was used in this study. The two elements of the model were the total peripheral resistance of

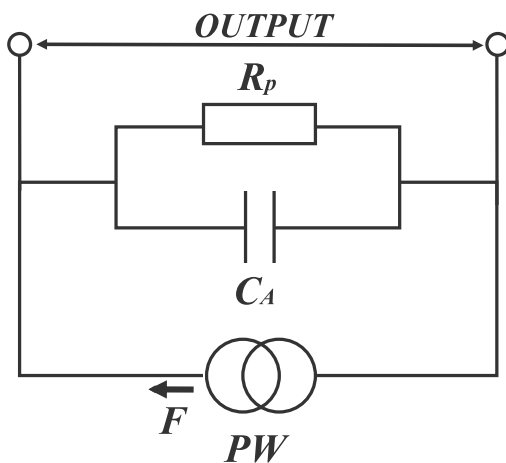


Fig.1 : The Windkessel model by an electric circuit used in this study. F, blood flow ejected from the left ventricle; PW, constant-current power source; OUTPUT, simulated blood pressure.

the arterial system (R_p) and compliance of the aorta (CA). The current source supplied a current waveform similar to the blood flow waveform ejected from the left ventricle in the circuit, and the blood pressure was recorded as the output voltage.

The two parameters of the circuit were adjusted to simulate the actual blood pressure waveform and output voltage waveform. Figure 2 shows that the diastolic blood pressure of the actual blood pressure waveform and the minimum voltage of the output voltage were equal at the time when the slope of the up-stroke of the actual blood pressure waveform and the output voltage waveform were equal.

Table 1 shows the translation of the electric system to the fluid system.

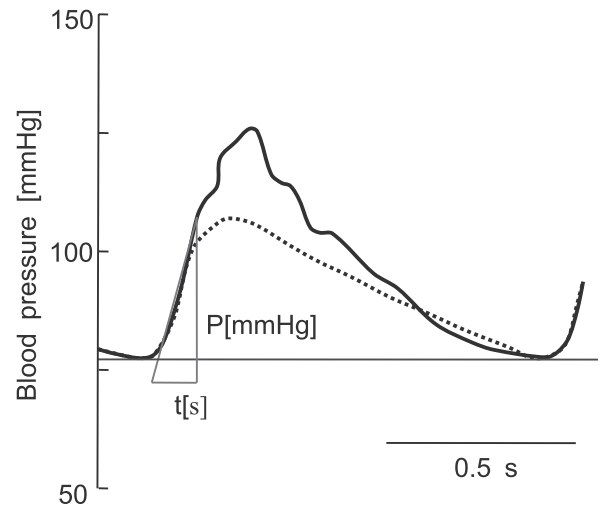


Fig.2 : An arrangement to determine two elements of the circuit. Solid line, actual blood pressure waveform; dotted line, the blood pressure waveform simulated the following:

- 1) The diastolic blood pressure shown with a blue line in two blood pressure waveforms is equal.
- 2) The angle of the slope shown with a blue line in two blood pressure waveforms is equal.

Table 1: Correspondence between the electric system and fluid system.

	Fluid system	Electrical system
Blood pressure	1 mmHg	1 V
Blood flow	1×10^6 ml/s	1 A
Compliance	1×10^6 ml/mmHg	1 F
Vascular resistance	1×10^6 mmHg·s/ml	1 Ω
Time	1 s	1 s

2) Extraction of the reflected wave

Figure 3 shows that the waveform obtained by subtracting the blood pressure waveform by the simulation place from the actual blood pressure waveform was considered the blood pressure reflected wave.

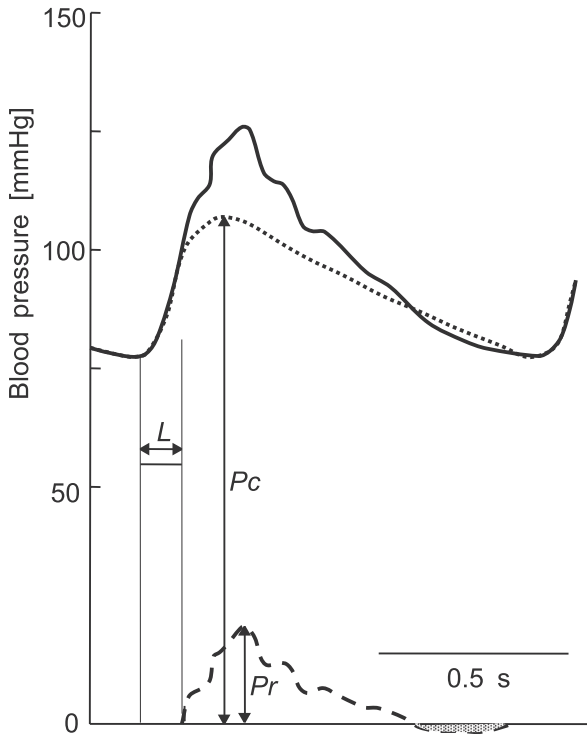


Fig.3 : Two parameters measured on the reflected wave. Solid line, actual blood pressure waveform; dotted line, simulated blood pressure waveform; dashed line, reflected blood pressure waveform; P_c : systolic blood pressure of the simulated blood pressure; P_r : max blood pressure of the reflected blood pressure; reflected wave rate: $P_r/P_c \times 100[\%]$; reflected wave latency: $L[s]$.

Results

The time difference between the starting point of up-stroke of the actual blood pressure waveform and that of the reflected wave was considered the reflected wave latency, and the percentage of the amplitude of the reflected waveform with respect to that of the blood pressure waveform by simulation was considered the reflected wave rate (Fig. 3).

Table 2 shows the reflected wave latency and the reflected wave rate. The reflected wave latency of the middle-aged participant was shorter than that of the three young subjects. In addition, the reflected wave rate of the middle-aged subject was higher than that of the three young subjects.

Table 2: The reflected wave rate and latency of all subjects.

	Reflected wave latency	Percentage of the amplitude of the reflected waveform
Student A	0.11 s	19 %
Student B	0.12 s	11 %
Student C	0.12 s	10 %
Middle-aged man	0.07 s	24 %

Furthermore, a small negative component other than the primary reflected wave was detected in a case.

Discussion

AI is the most popular index used in the reflected wave²⁻⁴. Figure 4 shows that the pressure difference obtained by subtracting the blood pressure of inflection point on up-stroke of the blood pressure waveform from the systolic blood pressure is defined as the amplification by the reflected wave in the calculation of AI²⁻⁴. Then, AI is the percentage of the pressure difference to the pulse pressure. Because the intensity of the reflected wave depends on the physical properties of the peripheral reflection point, quantifying the intensity of the reflected wave corresponds to evaluating sclerosis in the small artery⁹. However, the pressure difference between the blood pressure of the inflection point and the systolic blood pressure does not precisely reflect the amount of blood pressure augmentation by the reflected wave. Hence, in my view, the substitution of AI with a more appropriate index is essential. Conversely, an inflection point on up-stroke of the blood pressure waveform implies the arrival of the reflected wave. Therefore, the time difference between the starting point of the blood pressure waveform and the inflection point on up-stroke is the time required for the blood pressure wave to reciprocate between the recording position and reflection point. In addition, the time difference between the starting point of the blood pressure waveform and inflection point on up-stroke could be an appropriate index of sclerosis in the large artery because the pulse wave velocity increases with the progression of sclerosis in the large artery^{10,11}.

The reflection wave rate corresponds to the amount of blood pressure augmentation by the reflected wave, and the reflected wave latency is equivalent to the time difference between the starting point of the blood pressure waveform and inflection point on up-stroke. In my opinion, the stiffness of large and small arteries in the middle-aged subject resulted from the shorter reflected wave latency and higher reflected wave rate than those recorded in the three young participants. It is, thus, necessary to separate proceeding wave and reflected wave to calculate these two indices.

In this study, the electric circuit was applied to reproduce the blood pressure waveform without reflected waves because the presence of reflected waves

can be ignored when the length of the electric circuit is short and the frequency of the signal is low. However, this study used the most uncomplicated electric circuit comprising only two elements to simulate the blood pressure waveform as an electric circuit imitating the arterial system. The two elements are the electric capacity corresponding to the compliance of the large artery and an electric resistance corresponding to the peripheral resistance. Despite conducting the blood pressure wave through the large artery, the nonelastic resistance of the large artery is not assumed in this model. This resistance can be ignored if the artery is considerably large, a condition that was observed in this study. In addition, this study did not assume the inertial component of the blood. However, this should not be a problem because the inertial component of the blood is mostly determined by the blood density, and there was little individual difference in the blood density. It is essential to consider the appropriateness of this procedure for determining the simulated blood pressure waveform by an electric circuit. In this study, because the number of elements of the simulation circuit is not necessary, it suffices the high accuracy of the blood pressure waveform, which does not include reflected waves. Therefore, further investigation is required to study methods for evaluating the appropriateness of the reproduced blood pressure waveform.

Conclusions

This study proposes a method for extracting the reflected wave from the blood pressure waveform using an electric circuit model. The signs of arteriosclerosis due to aging in a middle-aged male were estimated from the two calculated parameters of the reflected waves.

References

- 1) Sugimachi M, Kawada T, Shishido T, et al (1997) : Estimation of arterial mechanical properties from aortic and tonometric arterial pressure waveforms. *Methods Inf Med.* 36, 250-3.
- 2) Sugimachi M, Shishido T, Sunagawa K.(2001) : Low compliance rather than high reflection of arterial system decreases stroke volume in arteriosclerosis: a simulation. *Jpn J Physiol.* 51, 43-51.
- 3) Campbell KB, Burattini R, Bell DL, et al (1990) : Time-domain formulation of asymmetric T-tube model of arterial system. *Am J Physiol.* 258, H1761-74.
- 4) Alexander J, Burkhoff D, Schipke J, et al (1989) : Influence of mean pressure on aortic impedance and reflections in the systemic arterial system. *Am J Physiol.* 257, H969-78.
- 5) Wilkinson IB, MacCallum H, Cockcroft JR, et al (2002) : Inhibition of basal nitric oxide synthesis increases aortic augmentation index and pulse wave velocity in vivo. *Br J Clin Pharmacol.* 53, 189-92.
- 6) Yasmin, Brown MJ. (1999) : Similarities and differences between augmentation index and pulse wave velocity in the assessment of arterial stiffness. *QJM.* 92, 595-600.
- 7) Dart AM, Gatzka CD, Cameron JD, et al (2004) : Large artery stiffness is not related to plasma cholesterol in older subjects with hypertension. *Arterioscler Thromb Vasc Biol.* 24, 962-8.
- 8) Okamura N (2016) : Analysis of the Common Carotid Arterial System in the Electrical Circuit Based on the Three-element Model: Effects of Neck Retrocollis. *BULLETIN EHIME PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES.* 13, 9-13.
- 9) Hashimoto J, Westerhof BE, Westerhof N, et al (2008) : Different role of wave reflection magnitude and timing on left ventricular mass reduction during antihypertensive treatment. *J Hypertens.* 26, 1017-24.
- 10) Van Bortel LM, Laurent S, Boutouyrie P, et al (2012) : Expert consensus document on the measurement of aortic stiffness in daily practice using carotid-femoral pulse wave velocity. *J Hypertens.* 30, 445-8.
- 11) Tanaka H, Munakata M, Kawano Y, et al (2009) : Comparison between carotid-femoral and brachial-ankle pulse wave velocity as measures of arterial stiffness. *J Hypertens.* 27, 2022-7.

Abstract

In this study, an electric circuit model was used to isolate the reflected waves from the blood pressure waves recorded in a large artery. The flow waveform of the blood ejected from the left ventricle was recorded as a constant current source of an electric circuit model comprising electric capacity C_A , corresponding to the aorta compliance, and electric resistance R_p ,

corresponding to the total peripheral resistance. This model is commonly referred to as a two-element windkessel model. The parameters of the two elements varied in a way that the slope of up-stroke of the output voltage waveform and one of the blood pressure waveform accord and that of the minimum output voltage and diastolic blood pressure accord at the same time. Because the reflected wave is not included in this output voltage waveform at this time, a waveform obtained by subtracting the voltage waveform from the assessed blood pressure waveform could be considered a reflected wave. The peak latency of the reflected wave calculated by this method from the blood pressure waveform recorded in a 48-year-old male was shorter than the one recorded in three healthy college students. In addition, the amplitudes of the reflected wave in the 48-year-old male were higher than the ones in these students.

These results reflect the increase in the pulse wave velocity because of the decrease in the arterial compliance in middle-aged male and the enhancement of the reflected wave because of the increase in the peripheral resistance of the arterial system of the head and neck. On the other hand, there was an example where a small negative component other than the main reflected wave component was detected.

Conflicts of Interest

The author has no conflict of interest directly relevant to the content of this article.

要 旨

本研究は太い動脈で記録される圧脈波から反射波を抽出するために電気回路モデルを利用した。大動脈のコンプライアンスに相当する電気容量CA, 総末梢抵抗に相当する電気抵抗Rpからなる2要素のWindkessel modelを電気回路シミュレータ上で再現し, 定電流源として左室流出路血流波形を入力した。出力電圧と血圧波形の上行脚の傾きと, 出力電圧と血圧の最低値が等しくなるように2つの要素のパラメータを変化させた。この電圧波形を反射波が重畳していない血圧波形すなわち進行波と仮定した。実測した血圧波形から電圧波形を差し引いた波形を反射波と仮定した。21才の青年期健常男子大学生3名と比較し, 中年期48才男性は反射波のピーク潜時が短く, 振幅は大きかった。本法によって, 頸動脈血圧波形から反射波が分離され, 青年期

健常大学生より中年期男性で頭頸部の動脈系の末梢抵抗の増大による反射波の増強と動脈コンプライアンスの低下による脈波伝播速度の増大を反映した結果が得られた。一方で, メインとなる反射波以外に小さな負の成分が検出された例があった。

急性期看護学においてシミュレータと模擬患者を用いたシナリオ型シミュレーション演習の成果

松井美由紀*, 宮宇地秀代*

Educational Outcome of Scenario-based Simulation Exercise Using Simulator and Simulated Patient in Acute Nursing Science

Miyuki MATSUI, Hideyo MIYAUCHI

Key words: シミュレーション 急性期看護学 教育成果 シミュレータ 模擬患者

序 文

近年、日本の医療現場では高度化、複雑化した医療が進み、安全で安心な医療を提供できる看護実践能力が求められている。このため、看護基礎教育において社会の要請に応えうる資質を有する看護師の育成につながるよう教育内容の再構築の必要性が指摘されている¹⁾。また、看護実践能力を養う場とする臨地実習において、患者の人権への配慮や医療安全の観点から看護実践能力を高められる経験が少なくなっている。これらを解決する方法として医療現場でおこりうる状況を設定し、高性能のマネキンや模型等で臨床技術の演習を行うシミュレーション教育の導入の必要性²⁾が示されている。

シミュレーション教育とは、「臨床の事象を、学習要素に焦点化して再現した状況の中で、学習者が人やものにかかわりながら医療行為やケアを経験し、その経験を学習者が振り返り、検証することによって、専門的な知識・技術・態度の統合を図ることをめざす教育」³⁾である。日本での看護におけるシミュレーション教育は、これまで学生同士による患者体験や模擬患者による面接技法の学習などが多く実施され⁴⁾、海外に比べ高性能のマネキン等によるシナリオ型シミュレーション教育の導入や教育方法の確立は、進んでいない現状²⁾にあった。しかし、厚生労働省が、看護実践能力の向上や医療事故の軽減を目的にシミュレーション教育を推奨した⁵⁾影響もあり、看護基礎教育でも高性能のマネキンを利用したシナリオ型シミュレーション教育が普及しつつある⁶⁾。

急性期看護学は、学生にとって手術など未体験の事象を扱うため、急性期にある患者を捉えきれず、患者像がイメージできにくい。さらにその状況に応じて習得した知識を利用し、行動化することが難しい状況にある。また、臨地実習では、急性期という時間的切迫感や患者の重症化に伴い担当する患者像に学生は戸惑い、混乱した状況に陥りやすい⁷⁾。この問題を解決し学生の学習を促進するために、知識習得と知識利用の統合による臨床推論の強化を目的としたシナリオ型シミュレーション演習を実施した。この演習の特徴は、病状変化のある状況に設定したシナリオで、知識・観察・臨床判断・実践・評価の過程を通して看護者の臨床推論を段階的に経験できる点にある。ここでの臨床推論とは、特定の患者や家族について推移を見通すこと、つまり状況の変化についての推察を必要とすること⁸⁾を示している。

シミュレーション演習後、学生から高い授業評価を得たが、詳細な教育成果の検証は、されていない現状にある。今後、シミュレーション教育や看護実践能力向上のための教育方法論を探る上で、詳細な教育成果を検証することは、早急に取り組むべき課題である。

日本におけるシナリオ型シミュレーション演習の先行研究では、シミュレーション演習の効果^{9,10)}に関する研究がいくつか報告され、演習が臨床判断力の育成に効果があるという示唆が得られている。しかし、看護者の臨床推論の強化を目的とした演習の実践報告や成果に関する報告はない。以上のことから、急性期における看護者の臨床推論を考えたシナリオ型シミュレーション演習の

*愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

成果を明らかにすることは、シミュレーション教育の方法論を確立する上でも意義が高いと考える。

そこで、本研究ではシミュレーション教育の方法論を構築する基礎的資料を得るために、急性期看護学におけるシナリオ型シミュレーション演習（以下、演習とする）の成果を明らかにすることを目的とした。

シミュレーション演習の概要

1. 演習の位置づけ

本演習は、3年次前期の開講科目「急性期看護方法論」のまとめとして実施し、この演習までに、周手術期看護を学習している。

演習では、紙上事例で看護過程の展開をした後に、高性能シミュレータと模擬患者を用いた事例患者に対して実際に観察し、その状況で判断し援助の実施および実施に対する患者の反応の観察（評価）を組み合わせた授業を展開する。本演習の具体的な目標は表1に示す。

2. 演習方法

学生75名を12グループに分け、1グループ6～7名とする。実施にあたっては、12グループを2クラスにわけて演習を行う。

1) 事前準備

事前に事例（肝臓切除術を受けた術後1日目術後ICUに入室して退室予定の患者）を配布し、個人ワーク後、グループワークをし、看護問題および看護計画を検討する。グループ見解を提出後、教員がグループ指導し、修正した上で再提出する。

2) 演習時間と実施体制

- (1) 演習時間は、1グループあたり合計100分とする。
- (2) 高性能モデル人形2体を使用し、術後1日目患者の状態を再現する。さらに、模擬患者役を設定し、高性能モデル人形では対応できない患者の反応の補完をする。
- (3) 実施体制は、2つのシミュレーションおよびデブリーフィングセッションルームに分け、ファシリテーター兼デブリーフィアの教員1名、オペレーター兼模擬患者役の教員1名をそれぞれに配置する。

3) 実施プロセス

- (1) グループ毎に実施する。看護師役は学生2人1組、記録者1名、他の学生は観察評価者とする。
- (2) 実施は、図1に示す通りブリーディング^{註2)}・シミュレーションセッション・デブリーフィングセッション・授業全体の振り返りの順で行う。

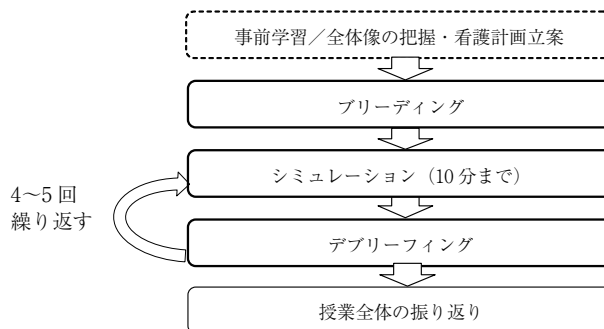


図1 1グループの演習の流れ

- (3) シミュレーションセッションは、患者を観察し、呼吸音の異常等を臨床推論し、状況に応じて必要な看護介入を実施し、実施した看護を評価する内容とする。
- (4) デブリーフィングセッションは、「できた点や良かった点」「学生が行動した根拠や理由」「改善点」を振り返り、次の実践に活用できるように促す。加えて、デブリーフィアが発問をし、どのような状況が起こっているのか、なぜ起こっているのかなど臨床推論できるよう導く。
- (5) 複数回の実施によって「①観察することができる」「②状況に応じたアセスメントができる」「③必要な看護介入がわかる」「④介入した成果を観察できる」まで、段階的に達成できるよう展開する。
- (6) 演習終了時に、振り返りシートを記載し全体を振り返る。

方 法

1. 研究対象者

研究対象は、A大学看護学科に在籍し、平成27年度に

表1 学習目標

学習目標
1. 学習した知識や技術を総括し、一連の看護ケアとしてつなげることができる。
2. 術後患者のアセスメントをして、必要な看護を考えることができる。
3. 学んだ知識を行動化し、実践につなぐことができる。
4. 体験を通して、自分の看護における課題を明確にすることができる。
5. グループワークを通して、チームにおけるメンバーシップや連携について実践できる。

授業科目「急性期看護方法論」を受講した学生78名とする。

2. 研究方法

1) データ収集方法

演習後に提出された振り返りシート（自由記述式：A4サイズ1枚）に記載されたテキストデータをデータとした。振り返りシートとは、演習を受講しての学びや気づき、感じたことを記述しているシートである。授業評価終了後、同意を得たシートの名前を削除し、整理番号をつけた。

2) データ分析方法

分析は、テキストデータから学生の学びや気づきを表現しているデータを抽出し、抽出したデータの意味内容を読みとり、一つの意味内容が含まれる単位データとした。これらを意味の類似性によりカテゴリ化、抽象化を繰り返した。分析過程では、研究者間で共通理解が得られるまで討議し、真実性の確保につとめた。

3. 倫理的配慮

授業評価終了後、振り返りシートを学生に返却したのち、研究に使用する等の趣旨を説明した。さらに、参加は自由意志であり、参加の有無や記入内容は成績評価に影響しないこと、同意撤回が可能であること、プライバシーの保護、匿名性、機密保持、データ管理、結果の公表について説明し、振り返りシートの再提出をもって同意を得たとした。

結 果

対象者全員78名から研究協力の同意が得られ、78名分の振り返りシートを分析の対象とした。そこから合計530単位データが得られ、意味内容により分類した結果、表2に示した通り、52コード、14サブカテゴリ、4カテゴリに分類された。

演習による成果は、【力不足を自覚し学習刺激を受ける】【刻々と変わる看護プロセスの知見を得る】【急性状態にかかわるための欠かせない看護技術を学ぶ】【急性期にある患者像や看護師像が鮮明になる】の4つであった。以下、カテゴリ【I】、サブカテゴリ《》で示す。

【力不足を自覚し学習刺激を受ける】は、学生ができない自分に直面し、足りない力を認識することで、知識や技術を高める必要性を感じたことを示している。このカテゴリは、《知識がなければ看護できない事実を認識する》《学習し知識や技術を高めていかなければならないことを実感する》《今の自分の力では思い描く看護が何もできないことを痛感する》《「わかる」と「できる」との違いを知る》の4サブカテゴリから導きだされた。

【刻々と変わる看護プロセスの知見を得る】は、急性期で変化する状況に応じた情報収集・判断・実践・評価という看護過程を実際に体験し、看護過程を展開する上で必要な知識や技術を学んだことを示している。このカテゴリは、《変化に応じた観察から介入・評価過程を知る》《目的・根拠に基づいた観察・ケアの必要性を知る》の2サブカテゴリから導きだされた。

【急性状態にかかわるための欠かせない看護技術を学ぶ】は、急性状態にある患者に対して安心・安全・安楽な看護を提供するために必要な観察やケアの具体的な方策について学習したことを示している。このカテゴリは、《的確に観察できる観察技術を学ぶ》《患者の安心感に繋がるかわりに気づく》《患者の安全安楽を考えた観察やケアの重要性を知る》《患者の前に立つための準備を整える重要性を知る》《チーム連携や協働が不可欠であることを感じる》《知らない知識や技術を知る》の6サブカテゴリから導きだされた。

【急性期にある患者像や看護師像が鮮明になる】は、リアルに再現した演習を体験し、みえなかった急性期の患者像が見えてきたことや急性期で働く看護師像が思い描かれたことを示している。このカテゴリは、《術後患者に対する看護のイメージが促される》《なりたい看護師像に近づく可能性を見いだす》の2サブカテゴリから導きだされた。

考 察

1. 演習の成果

急性期看護方法論における演習を体験しての成果は、【力不足を自覚し学習刺激を受ける】【刻々と変わる看護プロセスの知見を得る】【急性状態にかかわるための欠かせない看護技術を学ぶ】【急性期にある患者像や看護師像が鮮明になる】であった。

【力不足を自覚し学習刺激を受ける】は、学習意欲につながった成果である。学習意欲とは、学習に関連する目標志向的な行動を引き起こす活性化された心理状態である¹¹⁾。学生は知識習得と知識利用の違いを認識し、予想以上にできない自分を知り、実習など将来に対する危機感を感じたと思われる。この危機感が、否定的な感情よりも学習に対する価値と目的を実感し、学習意欲を生じさせたと推察できる。これは、事前に状態変化が生じることを示さず、実施時に臨床で起こりうる変化を体験させ、その状況を臨床推論できるように授業設計したことが影響したと考える。さらに体験を繰り返すことで、失敗を克服しながら理解を深め、成長感や達成感を体感できるよう工夫したこと、すなわち達成の保証¹²⁾をした授業設計であったことも学習意欲を促したと言える。

【刻々と変わる看護プロセスの知見を得る】は、急性期

表2 急性期看護学におけるシナリオ型シミュレーション演習の成果

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
力不足を自覚し学習刺激を受ける	知識がなければ看護できない事実を認識する	観察するためには知識が必要であることを認識する
		知識不足が患者に不安を与えることやインシデントにつながる危険性があることを知る
		知識が適切なアセスメントや効果的なケアに繋がることに気づく
		知識不足が自信のなさとなり積極的な行動につながらないことに気づく
	学習し知識や技術を高めたいかなければならぬことを実感する	これまでに学習した内容を確実に実践できるように学習をすすめる必要性を感じる
		確実に観察できる技術を身につける必要性を感じる
	今の自分の力では思い描く看護が何もできないことを痛感する	自分を思い描く看護をするために知識と思考力を身につけ技術を向上させていく必要性を感じる
		患者に合わせて観察やケアに繋げることができない自分の無力さを痛感する
	「わかる」ことと「できる」ことの違いを知る	患者の安心感に繋がる声かけができていない自分に気づく
		患者を前にして緊張・混乱する自分に直面する
		わかることとできることの違いを知る
		看護技術の経験を積み重ねていくことの大切さに気づく
刻々と変わる看護プロセスの知見を得る	変化に応じた観察から介入・評価過程を知る	臨床現場の再現が自分の実践能力を高める
		観察した結果を看護介入に繋げていくことの必要性を知る
		看護ケアの評価の必要性を知る
		日々変化していく患者の全体像をアセスメントしニーズに対応していく大切さを実感する
		一つの観察点だけで判断するのではなく総合的に判断する必要性に気づく
		患者との会話に看護ケアに活かせる重要な情報があることに気づく
	目的・根拠に基づいた観察・ケアの必要性を知る	患者の苦痛な症状に対して原因となっている手がかりを探る必要性を感じる
		具体的な看護計画を立案することの必要性を感じる
		観察する目的や根拠を考えて観察することの必要性を知る
		ケアをする目的や根拠を考えてアプローチする必要性を知る
		観察した結果を患者に伝えることが患者の安心感に繋がることに気づく
		患者の苦痛な症状に対して原因となっている手がかりを探る必要性を感じる
急性状態にかかわるための欠かせない看護技術を学ぶ	的確に観察できる観察技術を学ぶ	観察した結果を患者に伝えることが患者の安心感に繋がることに気づく
		どのように観察すればいいのか具体的な方法を知る
		単に一つ一つを観察するのではなく関連付けながら観察することの大切さに気づく
		観察時の見落としや忘れを防ぐ方法を知る
		観察点が不足していることを痛感する
		患者の状態を自分の目で再確認することを知る
	患者の安心感に繋がるかわりに気づく	看護師の五感を活かして観察する必要性を感じる
		患者の状態は変化することを前提にかかわることの必要性を感じる
		患者の不安を感じないように対応する必要性を知る
		患者に負担感を感じさせず効率的に観察やケアをする必要性を感じる
		患者の訴えに耳を傾ける必要性を感じる
		患者の応えやすい声かけや理解しやすい表現で話す必要性に気づく
	患者の安全安楽を考えた観察やケアの重要性を知る	患者が不安を感じないように対応する必要性を知る
		患者に負担感を感じさせず効率的に観察やケアをする必要性を感じる
		感染対策・事故防止対策の具体的な行動がわかる
		患者の訴えに耳を傾ける必要性を感じる
		症状緩和するための様々な方法を知る
		患者の羞恥心やプライバシーを考えた配慮の必要性を感じる
患者の前に立つための準備を整える重要性を知る	事前に学習準備をした上で患者のもとに行く必要性に気づく	
	事前に患者の情報を得た上で患者のもとに行く必要性に気づく	
	事前に物品の準備をした上で患者のもとに行く必要性に気づく	
	チーム連携や協働が不可欠であることを感じる	
	チーム連携でのコミュニケーション、情報共有の必要性を感じる	
	パートナーシップの利点に気づく	
知らない知識や技術を知る	患者に負担をかけないためにもチームワークは欠かせないことに気づく	
	異常時の対応方法を知る	
	知らなかった看護ケアを知る	
	術後患者に対する看護のイメージが促される	
	術後患者の痛みに対する配慮の必要性を感じる	
	急性期実習への不安の軽減に繋がる	
急性期にある患者像や看護師像が鮮明になる	患者の立場に立つ姿勢の重要性に気づく	
	急性期看護ができる可能性を見出し、興味を抱く	
	看護の専門職としての自覚と責任を持つ	
	実際にみることで術後患者がどのような状態なのかイメージできる	

での変化する状況に応じた看護過程の展開を実践する必要性に気づいた成果である。学生は、これまで主に紙上の看護過程の展開を学習してきたが、看護過程を点としか捉えきれていなかった。観察すれば終了し、あとは患者と話せばいいと考えていた学生が、観察結果から看護介入へ、さらに介入評価を観察する一連の過程を体験したことで、看護過程の展開の本来の意味を気づくことができた。すなわち、これは点ではない捉え方ができるようになったことを意味している。看護は観察から始まり観察で終わる¹³⁾とされている。このことは看護として重要かつ基本的な考え方である。今回、この考え方を取り入れ、観察のみならず看護介入及び介入後の観察(評価)まで含めたことやそれを一つ一つ段階的に実践できる授業設計にしたことが成果に繋がったと考える。

【急性状態にかかわるための欠かせない看護技術を学ぶ】は、看護をする上で重要な学びであり、状況との相互作用が生み出した成果である。《患者の安全安楽を考えた観察やケアの重要性を知る》《患者の前に立つための準備を整える重要性を知る》《患者の安心感に繋がるかわりに気づく》《チーム連携や協働が不可欠であることを感じる》は、学生と学生間、学生と模擬患者間の相互作用から、対象との関係において新しいニーズが生まれ、学生の中で感情が動き、思考が働き、行動が生まれた¹⁴⁾と推察できる。特に学生の中で感情が動き、《患者の安心感に繋がるかわりに気づく》ことができたのは、高機能シミュレータのみのシミュレーションでは得られなかった成果であり、模擬患者を併せた効果であろう。さらに、模擬患者を含めたシナリオの設定が、学生と模擬患者間で相互作用を生み出すことに繋がったと考える。すなわち、演習成果を得るには、シナリオ作成の重要性が示されたと言える。

また、藤岡¹⁴⁾は、「学生の情意、認知、技能のすべてが統合される学習の状況を作り出すことによって臨床の知の形成を促す。」と述べている。本演習においても、学生の感情が動き、思考が働き、行動が生まれたということは、臨床知の形成を促す成果として成り得たことを示し、方法論として適切であったと考える。

本演習では時間の関係上、看護師役を2人1組で実施せざるを得ない状況により臨床で用いられているパートナーシップナーシングシステム(以下、PNSと略す)を用いた前提にした。学生に、PNSの詳細な説明はせず実施したため、パートナーシップ・マインド¹⁵⁾の知識はなかったと想定できる。しかし、学生は2人で実施したことからパートナーシップ・マインドに気づくことができていた。このことは、経験による学習が、設定次第で学びを拓げる環境を作り出す事の可能性を示している。

【急性期にある患者像や看護師像が鮮明になる】は、術後患者のイメージ化の促進と急性期の看護師像を思い描

くことに繋がった成果である。術後患者のイメージ化の促進は、どれだけ術後患者の再現性をリアルに展開し、術後患者像をどれだけ捉えることができるのかが重要な要素である。今回の結果は、この演習で展開した模擬患者とシミュレータによる術後患者の再現でも、学生は少なからず術後患者のイメージを膨らませることができたと言える。これらは、実習での不安や混乱の軽減にもつながることが推察できる。

また、急性期の看護師像を思い描くことができたのは、観察評価者を設置したことで、他の学生や自分の行動を客観視し、将来の看護師像と照らし合わせることができた結果であると考えられる。学生は、これまで興味のない急性期看護に興味を抱き、目指すべく看護師像を見いだしていた。このことは、シミュレーション体験が看護の面白さを学ばせ、目指すべく看護師像を構築していく上でも有用であることを示している。さらに、このように興味の喚起や希望と見通し¹¹⁾をもつことが学習意欲を生じさせ、更なる動機づけになると考える。

2. 今後の課題

本研究では、急性期看護学におけるシミュレーション演習の成果が明らかになったものの、看護実践力の向上につながったかは明らかにされていない。今後は、学生が演習の成果をどのように実習で深め、実践能力の向上に繋がっているのかを検証していく必要がある。

また、シミュレーション演習は、臨床判断力の育成に効果¹⁰⁾があり、実践能力の向上には欠かせない授業技法である。したがってシミュレーション演習を臨地実習に連動させたプログラムにし、実習と演習をつなぐことで、学生の経験や思考過程を整理することが可能ではないかと考える。そのためには、人材を確保し実習を含めた具体的な授業設計をし、人材をどう活用していくのが課題となる。

さらに、成果が得られた要因には、教員のファシリテーション能力やデブリーフィングの力も関係していると推察できる。しかし、どのような教員の具体的なかわりが、学生を刺激し、感情が動き、思考が働き、行動が生まれてくるのかについて明らかにされていない。今後は、これらについて明らかにし、効果的なファシリテートやデブリーディングを示すことで、より効果的なシミュレーション演習になると考える。実践能力向上のために更なる改善、工夫が必要であろう。

引用文献

- 1) 厚生労働省(16/10/30):看護基礎教育の充実に関する検討会報告書。

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>

- 2) 片田裕子, 八塚美樹 (2007): 看護領域におけるシミュレーション教育の必要性, 富山大学看護学会誌, 8(2), 65-71.
- 3) 阿部幸恵 (2013): 臨床実践力を育てる 看護のためのシミュレーション教育, p.56, 医学書院
- 4) 清水裕子, 横井郁子, 豊田省子, 他(2008): 看護教育における模擬患者に関する研究の特徴, 日本保健学会誌, 10(4), 215-223.
- 5) 厚生労働省 (16/10/30): 看護基礎教育の内容と方法に関する検討会報告書. <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001vb6s-att/2r9852000001vbiu.pdf>
- 6) 黒田暢子, 織井優貴子 (2016): 看護基礎教育におけるシミュレータを用いたシミュレーション教育の実態調査, 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 4, 22-28.
- 7) 明石恵子 (2001): 急性期(周手術期)看護実習の“困難”をどう乗り越えるか, 看護展望, 26(11), 1201-1206.
- 8) P. Benner, P. Hooper Kyriakidis, D. Stannard(2012): Clinical Wisdom and Interventions in Acute and Critical Care(第2版), 2012; 井上智子監訳: 看護ケアの臨床知-行動しつつ考えること-, p.19-22, 医学書院
- 9) 矢野朋美, 土屋八千代, 野末明希 (2011): 手術直後の患者の観察演習における学生の傾向と演習方法の検討, 南九州看護研究誌, 9(1), 47-54.
- 10) 山内栄子, 西蘭貞子, 林優子 (2015): 看護基礎教育における臨床判断力育成をめざした周手術期看護のシナリオ型シミュレーション演習の効果の検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 76-86.
- 11) 鹿毛雅治 (2016): 学習意欲の理論-動機づけの教育心理学, 23-33, 金子書房
- 12) 前掲書, 244-254
- 13) Florence Nightingale(1985): Notes on Nursing: What it is and What it is not(第4版), 1985; 湯楨ます, 薄井坦子, 小玉加津子他訳: 看護覚書-看護であること・看護でないこと-, p.169-202, 現代社
- 14) 藤岡完治 (2000): 藤岡完治, 野村明美編, わかる授業をつくる 看護教育技法3シミュレーション・体験学習 (第1版), 5-7, 医学書院
- 15) 橘幸子 (2014): PNSの特徴とパートナーシップ・マインド, 看護展望, 24(9), 820-824.

註

- 1) デブリーフィングとは, シミュレーション教育の一連の過程において学習を促すために用いられる技法で, デブリーファ-の導きにより, 参加者がシミュレーシ

- ンセッション中のできごとに関するディスカッション, 振り返りを行いながら, 実施した行為を裏付ける知識・技術・態度を確認し合う学習支援方法である³⁾。
- 2) プリーディングとは, シミュレーション教育の一連の過程において学習を導入するために用いられる技法で, シミュレーションセッションを実施する際の冒頭で, 学習者指導者間における学習目標の共有, シミュレータの使用法をはじめとするシミュレーションを行う環境の理解や, シミュレーションセッションでの学習上のルールなどを学習者に説明することである³⁾。

要 旨

本研究の目的は, 急性期看護学におけるシナリオ型シミュレーション演習の成果を明らかにすることである。研究対象者は, A大学看護学科「急性期看護方法論」の演習を受講した学生78名である。方法は, 研究同意が得られた演習の振り返りシートに記載された内容を, 質的帰納的に意味内容により分類し分析した。結果, 演習を体験したことによる成果は【力不足を自覚し学習刺激を受ける】【刻々と変わる看護プロセスの知見を得る】【急性状態にかかわるための欠かせない看護技術を学ぶ】【急性期にある患者像や看護師像が鮮明になる】が見いだされた。これらから, この演習は学習意欲を促し, 臨床の知の形成を目指す内容であり, 状況設定次第で学びの拡がり, イメージ化の促進および目指すべく看護師像の構築にも有用であることが示唆された。今後は, 更なる実践能力向上のために演習と実習を繋ぐシミュレーション演習を検討していくことが課題である。

利益相反

本論文には利益相反に該当する事項はない。

Nouns in Tutuba Language (H-M)

Maho NAITO*

ツツバ語の名詞 (H ~ M)

内藤 真帆

Key Words : Vanuatu, Nouns, Dictionary, Bislama, English

In the Republic of Vanuatu, there are more than 100 languages¹⁾, and most Vanuatu people speak one of them as a mother tongue in addition to Bislama, a national language of Vanuatu. Tutuba language, a vernacular of Vanuatu, spoken in Tutuba Island has approximately 500 speakers and this is endangered²⁾. Though the number of speakers is declining, the previous research hasn't done, and to the best of our knowledge, Tryon et al.¹⁾ which contained about 300 vocabularies of Tutuba language, is supposed to be the only previous research.

This study focuses on nouns of Tutuba vocabularies, and describes their meanings, usages, and grammatical functions with many examples in Bislama^{3),4)}, English and Japanese. This paper will particularly focus on the vocabularies from H to M, as listed below, and this is the continuation of the paper Nouns in Tutuba Language (A-H)⁵⁾, that is published in 2016. The construction of each unit is shown as follows. 1. Tutuba word [part of speech] 2. meaning in Bislama 3. meaning in English 4. Tutuba example sentence 5. the glossary of the Tutuba example sentence 6. meaning of Tutuba example sentence in Bislama 7. meaning of Tutuba example sentence in English.

In this language, subject pronoun has a realis/irrealis distinction, and the third person singular object enclitic form is =a, except after transitive verbs ending in a. In this case, the form is =e, instead. Prenasalized stops [ᵐb] and [ᵐd] are written as b, d, [β] is written as v, and linguolabial [ᵐ] , [b] and [ᵐ] are written as [m'], [b'] and [v']. Abbreviations used in this paper are as follows. 1/2/3: first person/ second person/ third person,

art: article, B: Bislama, caus: causative, class: classifier, conjn: conjunction, dx: deixis, E: English, exc: exclusive, G: Gloss, imp: imperative, inc: inclusive, irr: irrealis, link: linker, n: noun, neg: negative, obj: object, pl: plural, poss: possessive, pp: preposition, r: realis, red: reduplication, ref: referential, rep: repetitive, sg: singular, vt: transitive verb, =: clitic marker, -: suffix marker

H

ha-leŋ, ha-le, ha-l [N] B. longwe E. there

T. O=hor-i=a! boi ila lo=to ha-le.

G. 2sg.r=see-obj=3sg.obj B. Yu Luk! Wan wael pig i stap lonwe. E. Look! A wild pig is over there.

ha-nede, ha-ne, ha-n [N] B. long ples ia E. here

T. Nno=ma ha-nede matan ka=reti na leo-n Mey tel-ei=o. G. 1sg.r=come place-dx conjn 1sg.ir=tell art language-link Mey pp-obj=2sg.obj B. Mi kam long ples ia blong talem mesej blong Mei. E. I came here to tell you May's message.

ha-nei [N] B. longwe E. there

T. Doblulu lo=to ha-nei? G. Doblulu prog=stay place-dx B. Doblulu skul i stap longwe? E. Is Doblulu (primary school) there?

hevei, orota [N] B. nat E. nut

T. Kamam ko=lo=an orota. G. 1pl.exc 1sg.exc.ir=prog=eat nut B. Mifala i stap kakae ol nat. E. We are eating the nuts.

*Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ehime Prefectural University of Health Sciences

ino, inol [N] B. ting E. 1 thing, 2 living thing

1. T. Turabue ma=davsai na isa-n ino tari. G. Turabue 3sg.ir=know art name-link thing many B. Turabue i save nem blong plante samting. E. Turabue knows many things' names.

2. T. Veasi mo=lsu ra-inol ma=va ma=burai=ra ro=dana. G. Veasi 3sg.r=kill pl-living thing 3sg.ir=go 3sg.ir=throw away=3pl.obj 3pl.r=stink B. Lisepep i kilim ol samting ia mo sakem olgeta blong ol i stap stink. E. The bush spirit killed things and threw them away to rot.

ino=baro [N] B. niufala samting ("ino" i minim ting, mo "baro" i minim niu.) E. new something ("ino" means thing, and "baro" means new. "inobar" is the combination of ino and baro.)

ino=tuae [N compound word] B. olfala samting ("ino" i minim ting, mo "tuae" i minim old.) E. old something ("ino" means thing, and "tuae" means old. "inotuae" is the combination of ino and tuae.)

ino=lavoa [N compound word] B. big something ("ino" i minim ting, mo "lavoa" i minim big.) E. big something ("ino" means thing, and "lavoa" means big. "inolavoa" is the combination of ino and lavoa.)

ino=vorvor [N compound word] B. smolsmol something ("ino" i minim ting, mo "vorvor" i minim smolsmol.) E. very small something ("ino" means thing, and "vorvor" means very small. "inovorvor" is the combination of ino and vorvor.)

isa- [N. bound noun] B. nem E. name

T. Isa-m ise ? G. name-2sg.poss who B. Wanem nem blong yu? E. What is your name ?

kamiruo [N] B. yutufala E. you two

T. Nao nno=lo=reti tel tubu-n kamiu kamiruo me=eno G. 1sg 1sg.r=prog=tell pp grand father/ grand mother-link 2pl 2pl.dual 2pl.dual.ir=sleep B. Mi stap talem long bubu blong yu se bambae yutufala i go slip. E. I was telling your grandfather that you two would go to sleep.

kamiu [N] B. you (prural) E. yu (plante)

T. Ae ka=si Tutuba tuan kamiu G. will 1sg.ir=go down Tutuba pp 2pl B. Bambae mi go long Tutuba aelan

wetem yufala. E. I will go to Tutuba Island with you.

kap [N] B. kap E. cup

kare- [N. bound noun] B. baksaed (bihaen), bak blong bodi E. back

T. Biti ima ma=ate na kare-n ima-i. G. small house 3sg.r=sit pp back-link house-ref B. Toelet i stap long bak blong haos. E. The toilet is behind the house.

karu- [N] B. leg E. leg

T. Karu-ku ma=asi=ao. G. leg-1sg.poss 3sg.ir=sore=1sg.obj B. Leg blong mi i soa. E. I have sore feet.

karu-karu- [N. bound noun] B. ol leg E. legs

T. Nna lo=vakoi na karu-n ve-natu-ku. G. 3sg prog=wash art leg-link woman-child-1sg.poss B. Em i stap wasem ol leg blong pikinini blong em. E. She is washing her child's legs.

karu=mavu [N compound word] B. tikim graon E. cultivate

lamo [N] B. flae E. fly

T. Mo=dono ma=tei lamo. G. 3sg.r=swallow 3sg.ir=dead fly B. Em i soalem flae mo i kilim. E. He swallowed the fly and killed it.

lamo-lamo [N] B. plante flae tumas E. so many flies

lamo=ati=ati [N compound word] B. moskito (fly=bite=bite) E. mosquito (flae=i kakae=i kakae)

T. Lamoatiati ro=le=ma ro=le=vere Olotu. G. mosquito 3pl.r=rep=come 3pl.r=rep=many Olotu B. Moskito i kam plante bakegen long Santo. E. Mosquitoes are becoming plentiful again in Santo.

T. Lamo=ati=ati ma=ati=ao mo=bulabula.

G. fly=red=bite 3sg.r=bite=1sg.obj 3sg.r=swell up

B. Moskito i kakae mi mo i solap. E. A mosquito bit me and the bite is swollen.

lanj [N] B. win E. wind

T. Lanj losi mo=lsu basura. G. wind very 3sg.r=kill papaya B. Strong win i spolem ol popo. E. Strong winds damaged the papayas.

lanlanjai- [N bound noun] B. kaen E. kinds

T. Lanlanjai-n vatal ma=lavoa ro nno=te=davsai ka=reti na isa-na. G. kind-link banana 3sg.r=big conjn

lsg.r=neg=know/possible lsg.ir=tell art name-3sg.poss
B. I gat plante kaen banana, i mekem se mi no save
talem nem blong olgeta. E. Since there are so many
kinds of bananas, I cannot tell which variety those are.

leŋ, le, l [N] B. longwe E. there

T. Tamoloi leŋ no-man sube. G. person dx thing-1pl.exc
chief B. Man ia longwe em i jif blong mifala. E. That
person is our chief.

T. Ve-tasi-ku e-tea lo=to Vila ae a=ma tel-ei=ao na sio
leŋ. G. woman-child-1sg.poss cdr=one prog=stay Vila
will 3sg.ir=come pp-obj=1sg.poss pp year dx B. Smol
sista blong mi we i stap long Vila bae em i kam luk mi
long nekis yia. E. My small sister living in Vila will
come to see me in the next year.

leo- [N bound noun] B. langis, voes, toktok, mesej E.
language, voice, talk, message

T. Ma=davsai na leo-n Tutuba. G. 3sg.r=save/possible
art language-link Tutuba B. Em i save languis blong
Tutuba. E. He knows the Tutuba language.

T. Nno=ma ha-nede matan ka=reti na leo-n mey tel-ei=o.
G. lsg.r=come place-dx conjn lsg.ir=tell art language-
link May pp-obj=2sg.poss B. Mi kam long ples ia blong
talem wan mesej blong Mei. E. I came here to tell you
May's message.

lima- [N bound noun] B. han, part blong bodi stat long
solda i go daon kasem finga E. arm

T. Docta mo=tov tamoloi nen lima-na me=siati.
G. Docter 3sg.r=call person dx arm-3sg.poss 3sg.r=not
good B. Dokta em i kolem man ia we han blong em i
broke. E. A doctor called the person who has a broken
arm.

lolo- [N bound noun] B. insaed E. inside

T. Masi lo=to na lolo-n sios. G. bird prog=stay pp inside-
link church B. Pijin i stap long insaed long haos. E. A
bird is inside of the church.

m'ana [N] B. laf E. laugh

T. ma=avtai ma=ma mo=sor-i=a ro ma=m'ana.
G. 3sg.r=come out 3sg.r=come 3sg.r=look-obj=3sg.obj
conjn 3sg.r=laugh B. Em i kam aot mo lukluk em, afta
em i laf. E. She came out and saw him; then, she
laughed.

m'asi [N] B. fis E. fish

T. M'asi evisa o=isi=a matan nabar raviravi? G. Fish
how many 2sg.r=touch=3sg.obj pp today afternoon
B. Hamas fis yu gat blong kakae long tede long sava?
E. How many fish did you catch for today's supper?

m'ata- [N bound noun] B. ankel E. uncle

T. Ro=taŋsi sobe-ra. G. 3pl.r=mound chief-3pl.poss
B. Olgeta ol i krae long chief blong olgeta we i ded.
E. They mourned their chief.

m'ata- [N] B. ae E. eye

T. M'ata-ku me=siati. G. Eye-1sg.poss 3sg.ir=not good
B. Ae blong mi i no gud. E. I have poor eyesight.

mabi, mabi- [N bound noun] B. bubu, smolbubu (little
one after the elder one) E. grandchild

T. O=le na mabi-de a-be? G. 2sg.r=take art grandchild-
ref ref-where B. Yu karem bubu i kam long wea? / Yu
karem bubu i kam go long wea? E. Where did you
bring your grandchild from? / Where did you bring
your grandchild to?

T. Mambi-ku ro=falafuroi. G. Grandchild-1sg.poss
3pl.r=naked B. Ol smolbubu blong mi ol i stap malmal.
E. My grandchildren are naked.

madu, madu- [N free, bound noun] B. apu E. grandparent

T. Biti-no-i me=r o=r saina madu? G. Smallness-thing-
ref one 3sg.r=tell 2sg.r=tell what old B. Pikinini i askem
se bubu i talem wanem? E. The children asked,
"Grandpa (Grandma), what did you say?"

madal [N] B. olfala karen E. old garden, old field

mako [N] B. mango E. mango

T. O=an te mako me=ev? G. 2sg.ir=eat art mango
3sg.r=finish B. Yu kakae mango finis? E. Have you
eaten mango?

malo [N] B. koral, korel E. coral

malo-malo [N] B. koral rif, korel rif E. coral reefs

malumalu-/malmal- [N bound noun] B. sadow

E. shadow

T. Viriu nen lo=eno na malumalu-n viei. G. dog dx
prog=sleep pp shadow-link tree(reference form) B. Dog
ia i stap slip long sadow blong tri. E. This dog was lying
in the shade of a tree.

mama [N] B. papa E. dad, daddy
T. Mama, ka=vano ! G. father, 1sg.ir=go B. Papa,
bambae mi go nao! E. Daddy, I'm going !

maradi [N] B. ston, bigfala ston E. stone, rock
T. Boŋ e-tea e-tea ma=ate na vaba-n maradi. G. day
cdn-one cdn-one 3sg.r=sit pp hole-link stone B. Wan dei,
wan lisepep i stap sidaon long hol blong wan bigfala
ston. E. One day, a bush spirit was sitting in a cave.

mareo [N] B. taon E. town
T. Nna me=te=ŋ a=lo=to na mareo.
G. 3sg 3sg.r=neg=want 3sg.ir=prog=stay pp town
B. Em i no wantem stap long taon. E. She doesn't want
to live in town.

masi [N] B. pijin E. bird
T. Masi tarina me=rei leŋ? G. bird many 3sg.r=exist dx
B. I gat plante kaen blong ol pijin longwe? E. Are there
many kinds of birds there?

T Nno=hor masi ro=lo=reti-reti na mes. G. 1sg.r=hear
bird 3pl.r=prog=red-tell pp bush B. Mi harem wan pijin
i stap singsing long bus. E. I heard birds singing in the
bush.

masi-masi [N] B. ol pijin E. bird (general)

masibon [N] B. moning E. morning
T. Ida tarina do=sa a-uta masibon. G. 1pl.inc many
1pl.inc.r=go up morning B. Bambae yumi evriwan i go
long garen tede long moning. E. Let's everyone go to
the field this morning.

masiŋae [N] B. agri, agrimen E. agreement
[V] B. agri, E. agree
T. Matan lele nira ro=te=masiŋa. G. conjn news 3pl
3pl.r=neg=agree B. Taem olgeta ol i harem nius ia, ol i
no agri. E. Because of the news, they are no longer in
agreement.

Reference

- 1) Tryon DT(1976) : New Hebrides Languages: An Internal Classification. Pacific Linguistics
- 2) Lynch J, Crowley T(2001) : Languages of Vanuatu: A New Survey and Bibliography. Pacific Linguistics
- 3) Crowley T(1995) : A New Bislama Dictionary. The University of the South Pacific

- 4) Crowley T(2003) : A New Bislama Dictionary, 2nd edition. The University of the South Pacific
- 5) Naito M(2016) : Nouns in Tutuba Language (A-H). Bulletin of Ehime Prefectural University of Health Sciences, 13, 31-35.

Acknowledgement

I would like to express my gratitude to Tutuba language speakers.

This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP16H07139.

Conflicts of Interest

The author has no conflict of interest directly relevant to the content of this article.

要 旨

本資料は、ヴァヌアツ共和国のツツバ語を辞書形式で記録したものである。ヴァヌアツ共和国では83の島々において100もの現地語が話されており、本資料のツツバ語は話者数が500人に満たず、消滅が危ぶまれる言語の一つである。これまでに孤島ツツバ島で話されるツツバ語が研究の対象とされることはなく、したがって先行研究も筆者のものを除いてはほとんど存在しなかった。こうした消滅危機の状況と先行研究の乏しさを踏まえ、本資料は記録と保存を目指してツツバ語を辞書の形式で記録したものである。本資料で扱う語彙は、HからMの音で始まる名詞であり、これらはすべて2001年から現在までにツツバ島で定期的に行った現地調査のデータをもとに抽出している。本稿では、これを1.ツツバ語の語彙 [品詞] 2.ピスラマ語における意味 3.英語における意味 4.ツツバ語例文 5.ツツバ語例文のグロス 6.ツツバ語例文のピスラマ語訳 7.ツツバ語例文の英語訳の順番で記している。

Nouns in Tutuba Language (M-N)

Maho NAITO*

ツツバ語の名詞 (M ~ N)

内藤 真帆

Key Words : Vanuatu, Nouns, Dictionary, Bislama, English

In the Republic of Vanuatu, there are more than 100 languages¹⁾, and most Vanuatu people speak one of them as a mother tongue in addition to Bislama, a national language of Vanuatu. Tutuba language, a vernacular of Vanuatu, spoken in Tutuba Island has approximately 500 speakers and this is endangered²⁾. Though the number of speakers is declining, the previous research hasn't done, and to the best of our knowledge, Tryon et al.1) which contained about 300 vocabularies of Tutuba language, is supposed to be the only previous research.

This study focuses on nouns of Tutuba vocabularies, and describes their meanings, usages, and grammatical functions with many examples in Bislama^{3),4)}, English and Japanese. This paper will particularly focus on the vocabularies from M to N, as listed below, and this is the continuation of the paper Nouns in Tutuba Language (H-M), that will be co-published in 2017. The construction of each unit is shown as follows. 1. Tutuba word [part of speech] 2. meaning in Bislama 3. meaning in English 4. Tutuba example sentence 5. the glossary of the Tutuba example sentence 6. meaning of Tutuba example sentence in Bislama 7. meaning of Tutuba example sentence in English.

In this language, subject pronoun has a realis/irrealis distinction, and the third person singular object enclitic form is =a, except after transitive verbs ending in a. In this case, the form is =e, instead. Prenasalized stops [ᵐb] and [ᵐd] are written as b, d, [β] is written as v, and linguolabial [ᵐ] , [b] and [ᵐ] are written as [m'], [b'] and [v']. Abbreviations used in this paper are as follows. 1/2/3: first person/ second person/ third person,

art: article, B: Bislama, caus: causative, class: classifier, conjn: conjunction, dx: deixis, E: English, exc: exclusive, G: Gloss, imp: imperative, inc: inclusive, irr: irrealis, link: linker, n: noun, neg: negative, obj: object, pl: plural, poss: possessive, pp: preposition, r: realis, red: reduplication, ref: referential, rep: repetitive, sg: singular, vt: transitive verb, =: clitic marker, -: suffix marker

M

mata [N] B. snek E. snake

T. O=sor mata me=ev ? G. 2sg.r=look snake 3sg.r=finish
B. Yu luk snek finis ? E. Have you ever seen a snake ?

mate-mate [N] B. nilgras E. mimosa pudica

T. E=te=isi na mate-mate ! G. 2sg.imp=neg=tough art
mimosa pudica B. Yu no mas tajim nilgras ! E. Don't
touch the mimosa pudica !

matua- [N bound noun] B. raet, raet saed E. right

T. Ima-i tarina mo=to na matua-da. G. house-ref many
3pl.r=stay pp right-lpl.inc.poss B. I gat plante haos long
raet saed blong yumi. E. There are a lot of houses on
our right side.

mavi [N] B. graon E. ground

me-leŋ, me-le, me-l [N] B. em ia longwe E. that one

T. Batifanua no-da ma=lavao me=seu me-leŋ. G. village
class-lpl.inc.poss 3sg.r=many 3sg.r=beat thing-dx
B. Vilej blong mifala i mo bigwan bitim em ia longwe.
E. Our village is bigger than that one.

*Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ehime Prefectural University of Health Sciences

me-nede, me-n [N] B. em ia kolosap E. this one (which is closer to addresser)

T. Me-nede te me-l? G. thing-dx conjn thing-dx B. Em ia kolosap o em ia longwe? E. This one or that one?

me-nei [N] B. em ia E. this one (which is closer to hearer)

T. Me-nei boi ila. G. thing-dx pig wild B. Em ia wan wael pig. E. This is a wild pig.

mera [N] B. man E. man

T. Meli mo=boi mera lo=tuan nna. G. Meli 3sg.r=like man prog=help 3sg B. Meli i laekem man ia we i bin givhan long em. E. Meli likes a man who helped her.

mere- [N bound noun] B. pispis E. urine

T. Mere-m lo=si na sapat no-ku! G. urine-2sg.poss prog=go down pp sandal class-1sg.poss B. Yu, pispis i go long savat blong mi! E. Your urine is splashing on my sandals!

mesa- [N bound noun] B. woman blong em E. wife

T. Mesa-m mo=boi noannan malum.
G. woman-2sg.poss 3sg.r=like food soft B. Woman blong yu i laekem kakae we em i sofsop. E. Your wife likes tender foods.

mesu [N] B. bus E. bush

T. Nno=sor mate-a e-tea na mesu nanov dodo.
G. 1sg.r=look die-nmlz cdm-one conjn bush yesterday night
B. Mi luk wan ded bodi long bus yestede long naet.
E. I saw a dead body in the bush last night.

mesu-mesu [N] B. tums bus E. wood, many bushes

nabar [N] B. tede E. today

T. A=te=vano lavi matan reti-reti-a-i nabar.
G. 3sg.ir=neg=go must pp red-tell-nmlz-ref today
B. I gat miting long tede, mekem mi no save go.
E. Since there's a meeting today, he can't go out.

nani <Bislama. nani [N] B. nani E. goat

T. nani a=sun nno ! G. goat 3sg.ir=headbatt 2sg
B. Bambae nani i hitim yu !
E. A goat may headbatt you !

nanov [N] B. yestede E. yesterday

T. Vavine-i do=reti sur-i=a nanov ma=mae.
G. woman-ref 1pl.inc=tell pp-obj=3sg.obj yesterday

3sg.r=come

B. Woman we mifala i tokbaot yestede i kam. E. The woman whom we talked about yesterday came over.

nao- [N] B. front, fes, foret E. front

T. Ae a=si a=sor Vemol na nao-n sikul. G. will 3sg.ir=go down 3sg.ir=look Vemol pp front-link school B. Bambae em i luk Vemol long foret blong sikul.
E. He will see Vemol in front of the school.

nao [N] B. Mi (independent pronoun) E. I (independent pronoun)

T. Nao nno=boi Tatuba. G. 1sg 1sg.r=like Tatuba B. Mi laekem Tutuba. E. I like Tutuba.

natu- [N] B. pikinini E. child

T. Natu-m evisa ? G. child-2sg.poss how many B. Yu kat hamas pikinini? E. How many children do you have?

nede, nen, ne, n [N] B. ia E. this

T. Tamoloi nen sube-ra G. person dx chief-3pl.poss
B. Man ia hem i jif blong olgeta. E. This person is their chief.

nei [N] B. ia E. that

T. Tamoloi nei tamol dui. G. person dx man good
B. Man ia i kaen. E. That person is kind.

ne-na, na-natu [N] B. ples ia longwe, ia longwe, longwe E. there

T. Tamoloi l ne-na, nna me=reti-reti leo-n Vuisa.
G. person dx place-dx, 3sg 3sg.r=red-tell language-link Bokisa B. Man we em i stap longwe i toktok langis Bokisa. E. That person over there speaks language Bokisa.

ne-nede, ne-ne, ne-n [N] B. ples ia, ia E. here

T. E=ma, E=ma nene. G. 2sg.imp=come, 2sg.imp=come dx B. Yu kam, kam long ples ia. E. Come over here !

ne-nei [N] B. ples ia longwe (ples ia longwe, be i no longwe tumas) E. There

T. Tamoloi e-tea mo=tun ne-nei nanov dodo. G. man cdm-one 3sg.r=stand place-dx yesterday night B. Wan man i stap long ples ia longwe yestede long naet. E. A person was standing there last night.

nentovon [N] **B.** nao **E.** now
T. Ae nentovon ka=reti matan na ava-i . **G.** will now
lsg.ir=tell pp art turtle-ref **B.** Nao ia, bambae mi talem
wan stori blong totel. **E.** I will tell you a story about the
turtle now.

navul-e-rua [N] **B.** twenti **E.** twenty one
T. Siao-m efisa? Siao-ku navul-e-rua. **G.** year-2sg.poss
how many? year-lsg.poss 10-cdn-2 **B.** Yu gat hamas
yia? Mi gat twenti yia. **E.** How old are you? I am twenty.

navul-e-tol [N] **B.** teti, toti **E.** thirty **G.** 10-cdn-3
navul-e-v'ati [N] **B.** foti **E.** forty **G.** 10-cdn-4
navul-e-lima [N] **B.** fifti **E.** fifty **G.** 10-cdn-5
navul-e-ono [N] **B.** sixti **E.** sixty **G.** 10-cdn-6
navul-e-mb'itu [N] **B.** seventi **E.** seventy **G.** 10-cdn-7
navul-oalu [N] **B.** eiti **E.** eighty **G.** 10-8 The reason
why 80 is not expressed "navul-e-oal" is, the vowel
sequence "eal" is not used in the Tutuba language.
navul-e-sua [N] **B.** naenti **E.** ninty **G.** 10-cdn-9

niu [N] **B.** kokonas **E.** coconut
T. Da=vai Vernabas a=le niu merei matan da=viri nna.
G. lpl.inc=make Vernabas 3sg.ir=take coconut some pp
lpl.inc=squeeze 3sg **B.** Bambae yumi mekem Vernambas
i go karem samfala kokonas blong kokonas milk.
E. Let's make Vernambas gather coconuts for coconut
milk.

nna [N] **B.** em (independent pronoun) **E.** he/she/it
(independent pronoun)
T. Nna mo=boi=o. **G.** 3sg 3sg.r=like=2sg.obj **B.** Em i
laekem yu. **E.** He likes you.

nno [N] **B.** yu (independent pronoun) **E.** you (independent
pronoun)
T. Nno o=loso me=ev? **G.** 2sg 2sg.r=take a shower 3sg.
r=finish **B.** Yu swim finis? **E.** Have you taken a shower?

noannan [N] **B.** kakae **E.** food
T. Ka=va ka=l te noannan **G.** lsg.ir=go lsg.ir=take art
food **B.** Bambae mi go blong karem samfala kakae.
E. I will go to get us food.

no-baro [N] **B.** niu samting ("no" i minim ting, mo
"baro" i minim niu. No-baro mo ino=baro ol i minim
samak.) **E.** new something ("no-" means thing, and
"baro" means new. "inobaro" is the combination of ino

and baro. No-baro has the same meaning as for the
"ino=baro".)

T. Me-l no-baro. **G.** thing-dx thing-new **B.** Samting ia
longwe em i niu wan. **E.** That is a new one.

no-lavoa [N] **B.** big something ("no" i minim ting, mo
"lavoa" i minim bigfala. No-lavoa mo ino=lavoa ol i minim
samak.) **E.** big something ("no-" means thing, and
"lavoa" means big. No-lavoa has the same meaning as for
the "ino=lavoa".)

T. Arvi-tamaute-i no-lavoa! **G.** rat-foreigner-ref thing-
big **B.** Buskat ia i bigwan! **E.** That cat is the big one!

no-mena [N] **B.** sweet something ("no" i minim ting, mo
"mena" i minim sweet. No-mena mo ino=mera ol i minim
samak.) **E.** sweet something ("no-" means thing, and
"mena" means sweet. No-lavoa has the same meaning as
for the "ino=mena".)

T. Mesa-ku mo=boi no-mena tasea. **G.** woman-lsg.poss
3sg.r=like thing-sweet too much **B.** Woman blong mi i
laekem samting we swit tumas. **E.** My wife likes the
sweets very much.

no-vorvor [N] **B.** smol something ("no" i minim ting, mo
"vorvor" i minim smolmol. No-vorvor mo ino=vorvor ol
i minim samak.) **E.** very small something ("no-" means
thing, and "vorvor" means very small. No-vorvor has the
same meaning as for the "ino=vorvor".)

T. Arvi-tamaute-i no-vorvor! **G.** rat-foreigner-ref thing-
very small **B.** Buskat ia i smalsmal one! **E.** That cat is
the very small one !

novar [N] **B.** pikinini we ol i gat tri yia kasem twelve
E. children aged about three to twelve
T. O=davsai na isa-n novar-i **G.** 2sg.r=know art name-
link children ageed three to twelve-ref **B.** Yu save name
blong pikinini ia? **E.** Do you know this child's name?

Reference

- 1) Tryon DT(1976) : New Hebrides Languages: An
Internal Classification. Pacific Linguistics
- 2) Lynch J, Crowley T(2001) : Languages of Vanuatu:
A New Survey and Bibliography. Pacific Linguistics
- 3) Crowley T(1995) : A New Bislama Dictionary. The
University of the South Pacific
- 4) Crowley T(2003) : A New Bislama Dictionary, 2nd
edition. The University of the South Pacific

- 5) Naito M(2016) : Nouns in Tutuba Language (A-H).
Bulletin of Ehime Prefectural University of Health
Sciences, 13, 31-35.

Acknowledgement

I would like to express my gratitude to Tutuba language speakers.

This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP16H07139.

Conflicts of Interest

The author has no conflict of interest directly relevant to the content of this article.

要 旨

本資料は、ヴァヌアツ共和国のツツバ語を辞書形式で記録したものである。ヴァヌアツ共和国では83の島々において100もの現地語が話されており、本資料のツツバ語は話者数が500人に満たず、消滅が危ぶまれる言語の一つである。これまでに孤島ツツバ島で話されるツツバ語が研究の対象とされることはなく、したがって先行研究も筆者のものを除いてはほとんど存在しなかった。こうした消滅危機の状況と先行研究の乏しさを踏まえ、本資料は記録と保存を目指してツツバ語を辞書の形式で記録したものである。本資料で扱う語彙は、MとNの音で始まる名詞であり、これらはすべて2001年から現在までに、ツツバ島で定期的に行った現地調査のデータをもとに抽出している。本稿では、これを1.ツツバ語の語彙 [品詞] 2.ビスラマ語における意味 3.英語における意味 4.ツツバ語例文 5.ツツバ語例文のグロス 6.ツツバ語例文のビスラマ語訳 7.ツツバ語例文の英語訳の順番で記している。

効果的な学習支援事例の共有による 実習指導者と教員の協働リフレクション —地域看護学実習報告会における試み—

田中美延里*, 入野 了士*, 窪田 志穂*, 長尾 奈美*, 野村美千江*

Collaborative Reflection of Clinical Practitioners and Teachers Through Sharing Cases of Effective Learning Support at a Clinical Practice in Community Health Nursing Conference

Minori TANAKA, Satoshi IRINO, Shiho KUBOTA, Nami NAGAO, Michie NOMURA

Key words: 実習指導者 リフレクション 協働 学習支援事例 地域看護学実習

序 文

看護基礎教育の臨地実習において、学生一人ひとりがのびのびと経験できる教育環境は教員の力だけで整えられるのではなく、実践現場の看護職との協働によって作り出される¹⁾。行政機関における実習では、家庭訪問や健康診査、集団健康教育などの事業参加を通して学習するため、学生が地域へ出向く保健師に同行する場面がある。教員は同時期に複数の施設を巡回して実習指導を行う場合が多く、臨地の保健師との協力体制がより重要となる。

本学の地域看護学領域では、開学当初から実習終了後に学内で指導者対象の実習報告会を開催し、実習の成果報告や課題の検討を行ってきた。平成27年度からは実習指導経験の意味づけを重視し、実習報告会において効果的な学習支援事例を共有する機会を設けている。これは、複雑で不確実な状況に対応可能な実践的思考として看護において注目されるリフレクション²⁾を、複数人が一堂に会して実施する方法³⁾の一例である。

本稿では、地域看護学実習報告会における実習指導者(以下、指導者)と教員の協働リフレクションの背景と試みの実際について報告する。

地域看護学実習の概要

1. 実習目的と実習方法

本学のカリキュラムは、平成24年度入学生から保健師教育選択制(定員30名程度)に改正された。地域看護学実習は3年次後期必修4単位から2単位に変更となり、保健師選択者は4年次に公衆衛生看護学実習3単位を含む選択科目の履修により保健師国家試験受験資格を得る教育課程となった。

平成26年度から新カリキュラムによる地域看護学実習を開始した。実習目的は、ヘルスプロモーションの理念を基盤に保健所・市町村における保健医療福祉活動の実際を通して、地域住民の健康レベルの向上をめざす看護活動の方法・技術を学ぶことである。

実習フィールドは愛媛県内の全保健所(県6, 中核市1)および管内市町で、各市町2~4名の学生グループを編成し、1クール2週間の実習を実施している。学生は保健所や市町保健センター・支所等を拠点に地域へ出向いて学習するため、遠隔地は宿泊を伴う実習である。県下20市町のうち平成26年度は17市町で、平成27~28年度は18市町で実習を行った。

*愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

2. 実習における学習の焦点

地域看護学実習における学習の焦点は、実習目標に対応させた①個別支援としての家庭訪問、②みて・きいて・つかんだ地域の姿、③保健事業と住民の声、④保健師の専門性である。日々の実習体験を振り返って考察する以外に、以下の2つの課題を設けている。

- i. グループの課題として、既存資料・地区踏査・インタビューから「みて・きいて・つかんだ地域の姿」を作成し、チームプレゼンテーションを行う。
- ii. 個人の課題として、「保健師の専門性」の観点で印象に残った場面を意味づけ、保健師活動の方法・技術として抽象化した内容をピアレビューする。

地域看護学実習において、学生は住民目線に立ち、各種保健事業を社会資源として理解し、地域特性、住民の生活、健康を関連付けて、地域の望ましい姿を考察する⁴⁾。

3. 実習指導体制

実習担当教員は1クールに1～2の実習グループを受け持ち、各グループの実習計画に合わせて、保健所、市町保健センター・支所等、複数の実習施設を巡回して指導を行う。

実習フィールドの指導体制は、保健師分散配置の影響を受けて複雑化している。指導者は、県保健所では企画課保健師であり、主にオリエンテーションに関する他課との調整や管内市町の実習調整および指導者の支援を担う。一方、市町では実習受け入れ部署によって指導体制が異なっている。本庁保健部門（保健センター）の保健師が指導者となる場合もあれば、支所での実習受け入れに伴い支所保健師に加えて本庁保健部門（保健センター）の保健師が全体調整を担う指導者となる場合がある。また、中核市では保健所保健師または事務職員を調整窓口とし、校区担当保健師が指導者となっている。

4. 指導者との事前打ち合わせ

毎年8月下旬から9月上旬に、保健所単位で実習打ち合わせ会を開催し、担当教員が保健所および管内市町の指導者に、実習目的・目標、学習の焦点、展開方法を説明している。そして、指導者の関心や担当業務、力を入れている活動や受け持ち地区の強みについて確認のうえ、実習テーマを設定し、それに沿って保健事業や家庭訪問を組み込んでいる。初めて地域に出る学生への地域看護活動の導入として、保健所・市町でのオリエンテーションが重要であるため、学生に身近な内容例を示すとともに、ベテラン保健師に「私の地区活動」の語りを依頼している。打ち合わせ会では、指導者同士で実習受け入れ準備について情報交換し、保健所指導者から市町の活動の特徴を実習計画に活かす助言を得ている。履修学生が確定していない段階であるが、学生のプライバシーに配慮

して機動力や宿泊先などの情報を共有し、現地での生活を想定した実習計画を検討している。

実習報告会における効果的な学習支援事例の共有

1. 企画の背景

平成26年度に、新カリキュラムの地域看護学実習準備のため、指導者との打ち合わせ会を2回開催した。学内での打ち合わせ会では旧カリキュラムとの変更点を中心に実習目的や展開方法について一斉説明し、保健所単位の現地打ち合わせ会にて、2週間の事業予定を踏まえて具体的な実習計画を検討した。

しかし、実習が始まると、到達度や具体的な展開方法について指導者から戸惑いの声が寄せられ、担当教員は現地で調整に追われる事態となった。指導者から実習終了後の意見交換の要望を受け、実習報告会では実習の変更点に関してグループワークにより指導者の意見を収集した。

その結果、本学の地域看護学実習と公衆衛生看護学実習の違いを明確に示し、実習フィールドの特徴を踏まえて展開方法を具体的に説明する必要性が浮き彫りになった。指導者の「実習を受け入れる以上は学生一人ひとりにとって良い実習にしたい」「実習生向きの事例や事業が少なくなった。他の保健師の協力を得るために実習計画を早めに共有したい」「看護師をめざす学生に保健師活動をどのように伝えるか試行錯誤している」という声に実習指導に対する熱意と責任感を感じ、相互理解のためのコミュニケーションの重要性を再認識する機会となった。

グループワーク後に、次年度からの実習打ち合わせ会と実習報告会の開催方法について指導者に相談したところ、打ち合わせ会は保健所単位で現地開催とし、実習終了後に報告会を学内で開催してほしいとの要望に集約された。その理由として「(自分の実習指導について)これでよかったのだろうかという思いが残る」「他施設でどんな実習をしているのか知りたい」「今年のグループの特性なのか、他のグループも同じ傾向なのか分からない」「他の指導者と一緒に振り返る機会がほしい」という声が挙がった。これらの背景には、保健師分散配置の職場環境で実習を受け入れ、限られた期間で実習目的に沿った学習機会を作るための組織内外の調整が難しいこと、実習指導経験の少ない中堅前期の指導者が増加していることが関連している可能性があると考えた。

そこで、実習終了後に指導者が学内で一堂に会する場の特徴を活かし、実習指導経験の意味づけに重点を置き、指導者が実際に行った効果的な学習支援事例の共有を試みることになった。指導者と教員が協働で行うリフレクションを意図した企画である。

2. 事例の選定と発表者への依頼

実習の各クール終了時に行う教員ミーティングで、効果的な学習支援事例の発表候補者を検討した。全クール終了後に候補者を2～3名に絞り、担当教員から候補者に効果的な学習支援と捉えた理由を伝え、発表を依頼した。その後、報告会企画責任者が改めて発表者に連絡し、企画の趣旨と発表方法について説明した。発表では、これまでの実習指導経験や学生に伝えたい保健師活動、実習指導で大切にしていることを含め、学生・グループへの直接的なかわりだけでなく、組織内外の調整における工夫についての紹介を依頼した。

事例選定については条件の明文化なく取り組みを開始したが、教員間で検討を進める中で、「実習目的に沿った学生と指導者の相互主体的な学習過程で、地域の強みの活用や組織内外の調整が含まれる」事例を挙げることが概ね共通認識となっていった。

3. 事例発表とリフレクションの枠組み

実習報告会における効果的な学習支援事例の発表時間は一人15～20分とした。担当教員が選定理由を含めて発表者を紹介し、発表後にグループワークを30分程度実施した。グループは地域と職位、本学の実習指導経験等のバランスを考慮し、1グループ5～6人編成とした。リフレクションの導入として、①効果的な学習支援事例の発表を受けての感想、②実習指導の工夫、③実習指導を通して発見したこと（組織への影響含む）を挙げ、大学への要望を含めて自由に話し合いを行った。最後にグループで話し合った内容を全体発表で共有した。

4. 試みの実際

平成27年度実習報告会の出席者は、指導者29名（県保健所5名、中核市保健所3名、市町21名）、教員5名（うち教育補助者2名）であった。平成28年度の出席者は、指導者35名（県保健所6名、中核市保健所3名、市町26名）、教員6名（うち教育補助者2名、ティーチング・アシスタント1名）で、次年度の新規フィールド上島町の保健師2名が含まれた。いずれの年も公衆衛生看護学実習フィールドである砥部町の指導者の出席を得た。

実習報告会の内容は、実習の成果と学生の経験と学びの報告、効果的な学習支援事例の発表とグループワーク、公衆衛生看護学実習の報告、次年度の地域看護学実習についての連絡等であった。平成28年度は、愛南町グループが「みて・きいて・つかんだ地域の姿」のチームプレゼンテーションを行った。

平成27年度と平成28年度に試みた効果的な学習支援事例の共有の実際をそれぞれ表1、表2に示す。

考 察

1. 効果的な学習支援事例の共有の試みがもたらしたもの

実習報告会における試みが、指導者、事例発表者、教員の3者にどのような影響をもたらしたかを検討する。

まず、指導者にとって、実習報告会で発表された効果的な学習支援事例は身近な自治体での取り組みであり、学生とのかかわりのエピソードや学習支援としての意味づけを聴くことによって、グループワークでの対話が促進されたと考える。

指導者は事例を通して自らの実習指導を想起し、移動中に学生と積極的にコミュニケーションをとる、事務所で電話のやりとりを聞く機会をつくるなどの多様な場面を挙げ、互いの工夫を共有し、学習支援として意味づけていた。What-Why-Howを活用した学生への具体的な指示のように、実習場面で取り組みやすい工夫が得られたと推察される。さらに、学生個人・グループへのかかわりだけでなく、指導体制に注目することによって、事業担当保健師や事務職員との協力など、指導者一人ではなく組織全体で実習生を受け入れ学習支援する視点へと広がりが生じていた。指導者から「実習前に（発表を）聞きたかった」「発表資料を次の指導者に引き継ぎたい」という声が挙がっており、発表内容や配付資料が組織内で共有され、実習指導のガイドとして活用されることが期待できる。

平成27年度の発表で取り上げられた西条保健所の指導者研修会は、地域における保健師の保健活動に関する指針⁵⁾に明記された保健所の「保健師等の学生実習に関する調整及び支援」役割に基づき、企画課保健師が管轄自治体の指導者育成ニーズに対応した事業化の例である。この取り組みの背景には、自治体保健師が指導者研修を受講しにくい現状がある。日本公衆衛生看護学会教育研修委員会の調査⁶⁾では、半数の自治体が指導者研修会に参加しておらず、参加している自治体でも参加職員数は半数以上が2人以下であり、指導者の育成としては不十分な実態が明らかになっている。厚生労働省事業である保健師助産師看護師実習指導者研修は平均67時間（35～240時間）と長く、自治体保健師の業務特性に合致していないため、公衆衛生看護学実習の指導者研修プログラム2日版が提案されている⁷⁾。今回、保健所での集合型研修半日と個別の相談的支援を受けた保健師が初めての実習指導に臨み一定の成果を上げた実績から、管轄自治体の地域特性や保健師活動を把握している保健所が指導者研修の一部を補完できる可能性が示された。実習報告会に出席した保健所保健師にとって、管内保健師の人材育成ニーズに対応する役割の重要性を確認する機会となったと考える。

次に、事例発表した指導者にとっては、自らの実習指導

表1. 平成27年度実習報告会における効果的な学習支援事例の共有

構成	内容
事例発表	<p>①今治市役所 住民サービス課(波方支所) 保健師 篠原知佳</p> <p>選定理由: 支所全体で実習を受け入れ、学生が地域に関心を寄せ、広い視野で地域を捉えられるよう働きかけていただいた。家庭訪問や事業の中で保健師の行動を学生に見せるだけでなく、タイムリーに学生の考えを引き出しながら専門職としての思考過程を伝える工夫をしてくださった。</p> <p>発表内容: 支所での実習指導は初めて。実習指導で大切にしていることは、生活の場に出ること、病院と地域とのつながり、保健師としての私の考えの見える化である。波方に愛着をもつ支所職員に町内一周案内を依頼した結果、学生が保健分野以外の歴史やエピソードを通して広い視野で地域を捉えるきっかけになった。昼休みに支所の食堂で職員から地域の情報を得ることができた。家庭訪問では医療機関とのつながりを考えられる事例との出会いをつくり、対象者のセルフケア能力を高めるかかわりや見通しをもって地域で生活できる支援の必要性を伝えた。実習前半は保健師としての私の考え・判断根拠を示し、後半は学生の考えや根拠を聞いてから「私はこう考える」を伝えるようにした。学生一人ひとりの強みを記録でしっかり伝え、学生の自己効力感を高めるよう心掛けた。</p>
	<p>②西条保健所 企画課 担当係長 星田ゆかり、西条市役所 健康医療推進課 保健師 梶原裕子</p> <p>選定理由: 初めて実習指導を担当する市保健師を対象に保健所で実習指導者研修会を開催し、企画課保健師自らが講師となった。受講した保健師が学びを活かして実習指導に取り組み、ポイントを押さえた学習支援をしてくださった。</p> <p>星田係長の発表内容: 実習指導者研修会で行った講義の一部を紹介された。以前受けた講習会で、学生には1から10まで言って3わかったら上等、背中では誰も見ていないし見たところで分からないと聞いた。指導者は学生と実習で関わる人達の間で立って「ツアーコンダクター&通訳」の役割を担う。教育機関の実習目標を保健師間で共有しておく必要がある。看護師を目指す学生が実習を経て保健師を希望する可能性もある。若者の特徴を踏まえた育て方のコツとして、What-Why-Howをセットで伝える具体的な指示と小さな成長をほめる方法の例を紹介。実習でのあいさつや服装、報告・連絡・相談、記録提出などの枠組みの設定を確認し、学生に保健師としての思いを伝えることが重要である。</p> <p>梶原保健師の発表内容: 保健師経験4年目。初めの実習指導で2グループを担当。実習準備期間に、保健所での実習指導者研修会の受講、実習打ち合わせ、事業・訪問担当者や関係者との連絡調整を行った。連絡調整を行う中で、普段接する機会の少ない上司と話をしたり、先輩から指導のアドバイスを得られたりしてうれしかった。自分の学生実習で良かったことを取り入れ、「指導する」よりどうすれば「学びやすくなるか」を考えて取り組んでみる、学生の取り組みをできるだけ確認して学生に返すようにするなどの目標を立て指導を自己評価した。学生と一緒に地区踏査する中で地域の新たな発見があり、顔つなぎや地域に向かうことの大切さを再認識した。</p>
	<p>(発表を受けての感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実習前に聞いたかった。 • 準備に時間をかけることが大切 • 事業を入れすぎなくてもよいと思った。 • 事業担当の保健師につなぐことが重要 • 「(学生に)1から10まで伝える！」と聞いて、昔の考えではいけないと思った。 • 学生へのネガティブなフィードバックはどのようにしたらよいのか悩む。 <p>(実習指導の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実習記録に必ずコメントを書くようにした。 • 移動中に学生の話聴くようにし、保健師のやりがいや大変さを語った。 • 年配保健師に活動の歴史を話してもらった。 • 若い保健師に保健師を志望した動機を話してもらった。 • 行政職に町の紹介を依頼する際、学生の立場や実習についての説明に時間をかけた。 • 医療との連携に注目してもらうため、学生と国保診療所を訪問した。 <p>(実習指導を通して得た新たな発見)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地区組織へのインタビューで学生が地域の強みを聞き出してくれた。今後の組織支援に活かしたい。 • 学生による自主グループへのインタビューを通して、現在の活動の悩みや困っていることをつかむことができた。 • 母子中心の保健活動になっていたが、高齢者について学生と一緒に調べて実際に関わりをもつことができた。

※敬称略、グループワークの内容は抜粋したものを記載

表2. 平成28年度実習報告会における効果的な学習支援事例の共有

構成	内容
事例発表	<p>①鬼北町役場 保健介護課(日吉支所) 保健師 岡崎あずさ</p>
	<p>選定理由：地区での健康学級や巡回健康相談など、学生が地域に出向く指導者と行動を共にし住民と触れ合う機会を作っていた。家庭訪問は指導者以外が担当し、係の保健師と学生との座談会を開催するなど、保健師全員が協力して指導して下さった。</p> <p>発表内容：実習指導は2回目。1回目は事業を多く経験できた半面、地域特性が見えにくかったため、今回は日吉支所の1地区に絞った。実習指導で心掛けたことは、実習計画を係全体(保健部門の保健師全員)で考える、住民グループ・職員・学生等との連絡調整を綿密に、(学生に)答えは教えないけどみるポイントは教える、(実践の)あとでしっかりと解説する、(網羅する・理解する・実行することを)よくばらない、とにかく楽しくのびのびとしてもらうことである。実習指導は地区住民の生活ぶりや思いをじっくり聞く機会になり、歴史や文化がコミュニティをつないで、地域に暮らし続ける原動力の大きな要素の一つになっていることが分かった。他の保健師が家庭訪問を担当したことにより、学生を介してノウハウを学ぶことができた。日常の業務に改めて保健師の専門性を見出せた。</p>
事例発表	<p>②新居浜市保健センター 保健師 河村千里</p>
	<p>選定理由：今年度2グループを担当。前半グループの指導経験を活かし、後半グループへのアプローチを工夫していただいた。自作の地域ノート(校区の情報を一元化したファイル)を活用し、学生が地域へスムーズに入っていけるよう支援して下さった。</p> <p>発表内容：実習指導は3回目です。担当のA校区に異なるテーマで2グループが入った。成果物「みて・きいて・つかんだ地域の姿」を比べると、前半グループは事業のつながりの確認に終わったが、後半グループは保健事業の展開を全体としてとらえることができた。違いはなぜ起こったか。前半グループは初めての实習(領域)でおとなしい学生たちだった。学生のみで公共施設中心の地区踏査を行い、他の業務の都合で自分から時間をとって校区オリエンテーションができず、地域ノートを学生に見せたのは最終日であった。反省を踏まえて、後半グループには2日目に地域ノートを見せた。公用車で校区内を回り、現地で説明し家庭訪問途中に補足した。一度きりの実習！学生の知りたいタイミングを逃さないようにかかわった。実習指導を通してA校区の住民が自分を認めてくれていることがわかった。A校区が大好きな自分に気づき、保健師は楽しい仕事と改めて思えた。</p>
グループワーク	<p>〈発表を受けての感想〉</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 学んでほしいことを指導者側も明確にしておかないといけない。 • 係の皆で計画し、方向性や到達点などを共有できて良いと思った。 • 実習目標を理解して、事業等で関わるスタッフにも伝えることが大事。 • 「背中を見て育て！」という視点を捨てきれない。 • 「答えは教えないけど、ポイントは教える」は名言。 • 地域ノートを作成し、地区をしっかりと把握されていると思った。自分の仕事を振り返っておく必要性を感じた。 • (自分の指導は)説明が主になっており、学生の理解度の把握ができていないことに気が付いた。 • あたたかい気持ちで学生に関わっていることが分かった。 • (指導をふりかえって)学生に地域の良さを分かってもらおうという熱い思いや楽しさを伝えられるとよかった。 • わかりやすい発表資料だったので、テキストとして利用し、次の指導者に引き継ぎたい。
	<p>〈実習指導の工夫〉</p>
グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> • オリエンテーションで保健師になったきっかけを話した。学生の反応が良く、場の雰囲気も和らいだ。 • 新人期保健師とのランチ会をもった。年が近く共感しやすい印象だった。 • 地域住民との触れ合いを多く持った。 • 子育て支援や地域包括にもオリエンテーションを頼んだ。 • 事務所の中で電話のやり取りなど聞いてもらった。 • 実習時期(ローテーション)によって学生の経験値に差があることを頭に置いてかかわった。 • 何を学ぶかぼんやりしているので、こちらがうまく引き出せるように「何がしたい？」と声をかけた。 • 学生が「保健師もおもしろいかも」と感じることをゴールにしたら気楽になった。 • いいところは(学生)本人に返すようにした。"
	<p>〈実習指導を通して得た新たな発見〉</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 学生のインタビューによって住民の率直な思いが分かった。 • 業務分担制なので、なかなか把握できない地区の強みを知ることができた。 • 学生に今後の展望について確認されることが多く、改めて考える機会になった。

※敬称略、グループワークの内容は抜粋したものを記載

経験を効果的な学習支援として意味づける機会となり、「顔つなぎや地域に出向くことの大切さを再認識」「日常の業務に改めて保健師の専門性を見出せた」「保健師は楽しい仕事」のように、リフレクションによる看護職者自身の内面的変化³⁾とされる、自己成長、看護実践への自信、仕事のやりがいやケアの糧、楽しさ等が生じていた。他者のエンパワメントを支援する前提条件は支援者自身のエンパワメントである⁸⁾と言われ、実習教育においては学生の学習を支援する指導者自身がエンパワーされる経験が重要である¹⁾。実習報告会での事例発表経験は、実習指導を導く日頃の保健師活動への深いリフレクションを促し、エンパワメントにつながったと考える。

最後に、教員にとっては、効果的な学習支援事例の共有を通して、実習フィールドの地域特性や職場環境に合った実習指導の工夫を把握する機会になった。そして、「答えは教えないけれど、みるポイントは教える」「学生が『保健師もおもしろいかも』と感じることをゴールにする」のように、指導者の印象に残る説明のヒントが得られた。これらは、事前打ち合わせなど、短時間で指導のポイントを示す際に活用できると考える。

2. 協働リフレクションの意義

目黒⁹⁾は「指導者講習会を“本当の指導”につながる学びの場へ変革していくためには、授業デザインとならんでもう一つとても大切になってくるものがある。自分の行った実習指導を振り返って確かめる、すなわち『授業リフレクション』である」と述べ、授業デザインと授業リフレクションの分かちがたい関係を強調している。

看護系大学が開催する一部の指導者講習会では、授業デザインと授業リフレクションを取り入れた演習が行われ¹⁰⁾、教育機関主催の看護教員と指導者の授業リフレクションの試み¹¹⁾¹²⁾や大学附属病院における指導者のキャリア発達支援としての「実習指導体験を語る会」¹³⁾が報告されている。しかし、これらは医療機関の指導者を対象としたものであり、先述の公衆衛生看護学実習指導者研修プログラム2日版⁷⁾においても実習後のリフレクションは含まれていない。本学の地域看護学実習では、保健所単位の実習打ち合わせ会が協働で行う授業デザインの場であり、実習報告会が協働で行う授業リフレクションの機会の一つと捉えることができる。

リフレクションに他者を活用することについて、中原ら¹⁴⁾は「他者との対話の中に埋め込まれた内省」の重要性を指摘している。近年は、経験学習の社会的要因に関する研究の発展により、内省を担う単位を個人レベルで考えるのではなく、複数人によって担われるものとして位置づけ、集団レベル、組織レベルで実施されるべきとの主張がみられる¹⁵⁾。実習報告会での協働リフレクションは、愛媛県内の自治体保健師であり指導者という共通

項をもつ集団レベルのリフレクションであり、地域の実情に合った実習指導の実践知を共有できる貴重な機会と考える。

自治体保健師の専門的能力に係るキャリアラダー¹⁶⁾はA-1からA-5までの5段階で構成されている。人材育成の項目において、プリセプターはA-2、後輩育成はA-3に位置づけられているが、実習指導に関する能力や目標の設定はみられない。今回の協働リフレクションでは、指導者が学生の見学訪問を他の保健師に依頼したことで「家庭訪問のノウハウ」に気づく、新任期保健師が学生に保健師志望動機や活動を語る交流会を設けるなど、実習生の学習支援が組織に新たな育ち合いを生み出すことを共有できた。実習指導における多様な役割を整理することにより、新任期から実習指導の一部を担当し、後輩育成力を高める方策を検討できると考える。保健師分散配置の職場環境でOJTに実習指導を位置づけることにより、育ち合うしくみづくりを推進できる可能性がある。

3. 今後の課題

実習報告会における協働リフレクションの発展に向けて、運営面では、リフレクションを促す問いを設定すること、グループワークのねらいと枠組みを明確にするオリエンテーションを行うこと、グループワークの内容を整理して指導者にフィードバックすることが重要と考える。

リフレクション評価の試みとして、平成29年度は効果的な学習支援事例の発表者から発表準備の過程や発表後のグループワークで気づいたこと、次の発表者へのメッセージ等を収集することを計画している。今後は指導者個人だけでなく、組織への効果を検証する方法を検討することが課題である。

自治体保健師の専門能力は状況依存性が高いため、限られた実習期間で初学者に保健師の専門性の理解を促す教育方法が課題となっている¹⁷⁾。今後、効果的な学習支援事例の選定では、指導者と教員との連携や保健所のオリエンテーション、カンファレンス場面での支援に焦点を当てることが重要である。

今回の試みで得られた実習指導の工夫の中には、捉えにくい保健師の専門性に着目した実習生の学習過程の構成要素¹⁷⁾に含まれる〈状況に身をおきやすい学習環境〉〈主体的で生き生きとした住民との交流〉〈保健師との対話による専門性の確認〉と共通する内容がみられた。指導者の地域ノートを活用した地区オリエンテーションは、視覚に訴える資料と生の語りの組み合わせであり、保健師ポートフォリオの活用可能性¹⁸⁾を支持する取り組みと考える。今後、多様な学習支援事例にみられる実習指導の工夫を分析することによって、地域の実情に合った指導スキルを明確にし、実習指導アイデア集を作成で

きる可能性がある。

結 語

新カリキュラムへの移行を契機に実習報告会の企画を再考し、平成27年度から効果的な学習支援事例の共有による指導者と教員の協働リフレクションを試みた。その結果、指導者、事例発表者、教員それぞれに意義ある手ごたえが得られた。今後も指導者と教員が協働で行う地域看護学実習の授業デザインと授業リフレクションを積み重ね、実習指導の実践知を共有し、地域の実情に合った実習指導アイデア集の作成に発展させていきたい。

引用文献

- 1) 田中美延里 (2015) : 教育環境 (人的・物的) の重要性. 「経験型実習教育」. 安酸史子編, p.26-31, 医学書院.
- 2) 田村由美, 津田紀子 (2008) : リフレクションとは何か—その基本的概念と看護・看護研究における意義—. 看護研究, 41 (3), 171-181.
- 3) 上田修代, 宮崎美砂子 (2010) : 看護実践のリフレクションに関する国内文献の検討. 千葉看護学会誌, 16(1), 61-68.
- 4) 野村美千江, 入野了士, 田中美延里, 他 (2016) : 中山間地域で住民と協働する力を養う公衆衛生看護学実習—愛媛県立医療技術大学の取り組み—. 保健師ジャーナル, 72 (6), 456-462.
- 5) 厚生労働省 (2013) : 地域における保健師の保健活動に関する指針. 厚生労働省健康局長通知 (平成25年4月19日付け健発. 0419第1号) 別紙.
- 6) 浅井澄代, 岡本玲子, 酒井陽子, 他 (2014) : 教育研修委員会報告. 日本公衆衛生看護学会誌, 2(1), 61-65.
- 7) 浅井澄代, 岡本玲子, 酒井陽子, 他 (2015) : 教育研修委員会報告. 日本公衆衛生看護学会誌, 4(1), 55-60.
- 8) 野嶋佐由美 (1996) : エンパワメントに関する研究の動向と課題. 看護研究, 29(6) 453-464.
- 9) 目黒悟 (2017) : 教える人を育てるとはどのようなことなのか—新しい実習指導者育成の方向—. 看護展望, 2, 4-18.
- 10) 久保幸代 (2017) : 指導のあり方を考えるための実習指導者研修会. 看護展望, 2, 40-43.
- 11) 永井睦子 (2012) : 看護教員と実習指導者の授業リフレクションに関する研究—イメージマップを用いた取り組みを通して—. 日本看護教育学会誌, 22, 学術集会講演集, 172.
- 12) 山本美子, 那須敏子 (2015) : 看護教員と実習指導者の授業リフレクションに関する研究—互いの経験を語る意味—. 日本看護教育学会誌, 25, 学術集会講演集, 187.
- 13) 近藤ふさえ, 堀込克代, 濱口真知子, 他 (2015) : 臨地実習指導者のキャリア発達支援—キャリア発達プログラムの実践と評価—. 順天堂保健看護研究, 3, 21-32.
- 14) 中原淳, 金井壽宏 (2009) : リフレクティブ・マネジャー. p.171-223. , 光文社.
- 15) 中原淳 (2015) : 経験学習の理論的系譜と研究動向. 日本労働研究雑誌, 639, 4-14.
- 16) 厚生労働省 (2016) 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～. <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000120070.pdf>
- 17) 田中美延里, 奥田美恵, 豊田ゆかり, 他 (2012) : 捉えにくい保健師の専門性に着目した実習生の学習過程. 四国公衆衛生学会雑誌, 57(1), 85-92.
- 18) 田中美延里, 奥田美恵, 窪田志穂, 他 (2016) : 保健師ポートフォリオを活用した臨地実習指導者による学習支援とその効果. 日本地域看護学会誌, 19(1), 40-47.

要 旨

新カリキュラムの地域看護学実習開始を機に、平成26年度に指導者対象の実習報告会の企画を再考した。平成27年度の実習報告会から、実習指導経験の意味づけを重視し、効果的な学習支援事例の共有による指導者と教員の協働リフレクションを試みた。2年間の試みの結果、指導者、事例発表者、教員それぞれに意義ある手ごたえが得られた。効果的な学習支援事例の共有は、愛媛県の自治体保健師であり実習指導者という共通項をもつ集団レベルのリフレクションの機会と考える。今後も実習指導者と教員が協働で行う地域看護学実習の授業デザインと授業リフレクションを積み重ねることにより、実習指導の実践知を共有し、地域の実情に合った実習指導アイデア集の作成に発展できる可能性がある。

謝 辞

地域看護学実習報告会において効果的な学習支援事例をご紹介いただいた保健師の皆様へ深謝いたします。また、会の企画運営を支援して下さった教育補助者の八東育子様、戎居百余様に感謝申し上げます。

利益相反

本報告における利益相反はない。

愛媛県立医療技術大学紀要投稿の案内

1 投稿原稿の種類等

投稿原稿の種類は、次に掲げるとおりとする。ただし、図書・学術委員会が依頼する原稿については、この限りでない。

- (1) 総説（特定の主題に関連した知見の総括、文献レビューなど）
- (2) 原著（学術的厳密さをもって研究が進められており、オリジナルデータに基づき独創的または新しい知見が示されている論文）
- (3) 短報（学術上及び実践上価値のある新しい研究成果で、原著ほどまとまった形ではないが、早く発表する価値のある論文）
- (4) 報告（事例・症例報告、実践報告など、原著に準ずる論文または新たな知見を示唆する論文）
- (5) 資料（学術的意義においてではなく、研究のデータなどを記録に残す価値がある論文）
- (6) その他（図書・学術委員会が特に認めたもの）

投稿原稿は、未発表のものに限るものとする。ただし、学会等において口頭発表をしたもの又は資料を配付したものについては、この限りでない。

上記(1)～(4)に掲げるものについては、査読を経るものとする。但し、依頼論文についてはこの限りではない。

2 倫理面への配慮

人及び動物を対象とする研究は、倫理面に配慮し、その旨を本文中に明記するものとする。

3 投稿の資格

紀要に投稿することができる者は、本学の専任教員、大学院生及び大学院修了者のうち紀要編集委員会が認めたものとする。

筆頭著者は原則として投稿資格を有するものとする。投稿資格を有するものは学外の研究者を連名投稿者にすることができる。

4 原稿の制限

原稿は、和文又は英文とし、原則としてワードプロセッサソフトで作成するものとする。

和文による投稿原稿は、A4判横書きで、1ページ32字×25行とし、原稿枚数は原則として、総説及び原著は20枚以内、短報、報告、資料及びその他については、15枚以内とする。（図表、写真及び引用文献を含む。）

英文による原稿は、A4判横書きで12ポイントフォント1ページ25行とし、原稿枚数は原則として、総説及び原著は12枚以内、短報、報告、資料及びその他については、9枚以内とする。（図表、写真及び引用文献を含む。）

5 原稿作成要領

- (1) 投稿原稿の本文には、別紙投稿原稿整理票及び400字程度の和文要旨（以下「投稿原稿整理票等」という。）を添付しなければならない。
- (2) 前項の場合において、投稿原稿が原著である場合は、投稿原稿整理票等に加えて250語程度の英文要旨（Abstract）を添付しなければならない。
- (3) 本文第1頁には、表題、著者名、所属及び5語以内のキーワードを記載するものとする。
- (4) 数字は算用数字を、単位は原則として国際単位系（国際単位系にない単位については慣用のもの）をそれぞれ用いることとし、特定分野のみで用いる単位、符号、略号、表現等には簡単な説明を加えるものとする。
- (5) 和文原稿は、本文は原則として日本語で記載することとするが、図、表、写真等の説明は英文で、外国人名等でワードプロセッサソフトにない文字については原綴で、それぞれ記載しても差し支えない。
- (6) 図、表、写真等は、それぞれ図1、表1、写真1 (Fig.1

又はTable1のように英文で記載しても差し支えない。）等の番号を付して本文とは別にまとめて整理し、本文の欄外に挿入希望位置を朱書により指定するものとする。

- (7) 図はそのまま掲載するので鮮明なものとする。
- (8) 引用文献、注等は、引用箇所^{1), 2, 3), 4-10)}などを付け、原稿末に一括して記載するものとする。また、著者が複数の場合は3名までを記載し、4番目の著者以下は「他」（欧文の場合は「et al.」）として省略する。
- (9) 文献の記載方法は、原則として次に掲げるとおりとする。この場合において、雑誌等の略名は、通常慣用される略名表に準拠して記載するものとする。

- 1) 雑誌の場合 著者名（発行年次）：表題名、雑誌名、巻、（号）、頁-頁、各号ごとのページと通しページの両方でページづけされている場合は、通しページを記載する。

例 ① Pinedo HM, Verheul HM, D'Amato RJ, et al. (1998) : Involvement of platelets in tumour angiogenesis? Lancet, 352, 1775-1777.

② 吉田時子, 吉武香代子 (1975) : 看護の基礎教育終了時における看護技術の到達度に関する研究. ナースステーション, 5, 68-78.

- 2) 単行本の場合 著者名（発行年次）：表題名、書名、編集者名、p. 頁-頁、発行所

例 ① Lutz RJ, Litt M, Chakrin LW (1973) : Physical-chemical factors in Mucous rheology. In : Rheology of Biological Systems. Gabelnick HL and Litt M (eds), Chap.6, p.119-157, C.C.Tomas Publisher

② 奥田秀宇 (1997) : 生物学的・社会的・心理的視座から見た対人関係。「親密な対人関係の科学」. 大坊郁夫, 奥田秀宇編, p.3-21, 誠信書房

- 3) 訳本の場合 原著者名（発行年次）：原名（版）、発行年次；訳者名；書名、p. 頁-頁、発行所（発行地）

例 Freeman HM, Heinlich WM. (1984) : Community Health Nursing Practice. 1981 ; 橋本正共已訳 : 地域保健活動と看護活動－理論と実践－. p.12-48, 医学書院

- 4) ウェブページの引用の場合 著者名又はサイトの設置者名（サイトにアクセスした日付（年/月/日））：タイトル名、アドレス（URL）

例 小島俊幸 (05/04/01) : クリニカルカンファランス 7 周産期医療と児の中長期予後 1) 母子感染. <http://www.jsong.or.jp>

- 5) PDFファイル等の電子出版物の場合 著者名（発行年次）：タイトル名、雑誌名、巻、（号）、頁-頁、アドレス（URL）

例 山口桂子, 服部淳子, 中村菜穂他 (2002) : 看護師の職場コミュニティ感覚とストレス反応. 愛知県立看護大学紀要, 8, 17-24, <http://aichi-nurs.ac.jp>

- 6) 視聴覚資料の場合 （ケースの裏に書かれているものを参考に書く。）原作者名（制作年次）：監修者名、タイトル名、制作地名、制作者名

例 川島みどり企画, 紙屋克子監修・指導 (2002) : 新しい体位変換のテクニック① 自然な動きを知らう. 日本メデュクス制作協力, 中央法規出版制作・著作

※単行本、訳本を参照する場合

上記 2) 3) の場合に準じて記載し、書籍1冊を参照する場合は、ページの記載を不要とする。一部を参照する場合は、該当ページを記載する。

6 原稿の提出

原稿は、毎年9月30日までに図書・学術委員を経由して図書・学術委員会に提出しなければならない。ただし、その日が休業日に当たるときは、その直後の勤務日とする。

●編集委員

草薙 康城 (看護学科)	鳥居 順子 (看護学科)	田中 昭子 (看護学科)
岡村 法宜 (臨床検査学科)	井上 明子 (看護学科)	
泉 浩 (図書館)	正岡 孝 (事務局)	

愛媛県立医療技術大学紀要

Bulletin of Ehime Prefectural University of Health Sciences

第14巻 第1号

2017年12月31日発行

編集	愛媛県立医療技術大学紀要編集委員会
発行	公立大学法人 愛媛県立医療技術大学 Ehime Prefectural University of Health Sciences 〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地 543 Takooda, Tobecho, Iyogun, Ehime 791-2101 Japan 電話 (089)958-2111
印刷	アマノ印刷株式会社

BULLETIN
EHIME PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES
Vol.14 No.1 2017

CONTENTS

Originals

Numerals and Rituals in Tutuba
..... Maho NAITO 1

Short Communication

Identification Method for Blood Pressure Reflected Wave Based
on Electric Circuit Model : A Proposal
..... Noritaka OKAMURA 7

Report

Educational Outcome of Scenario-based Simulation Exercise Using Simulator
and Simulated Patient in Acute Nursing Science
..... Miyuki MATSUI et al. 13

Materials

Nouns in Tutuba Language (H - M)
..... Maho NAITO 19

Nouns in Tutuba Language (M - N)
..... Maho NAITO 23

Collaborative Reflection of Clinical Practitioners and Teachers
Through Sharing Cases of Effective Learning Support
at a Clinical Practice in Community Health Nursing Conference
..... Minori TANAKA et al. 27